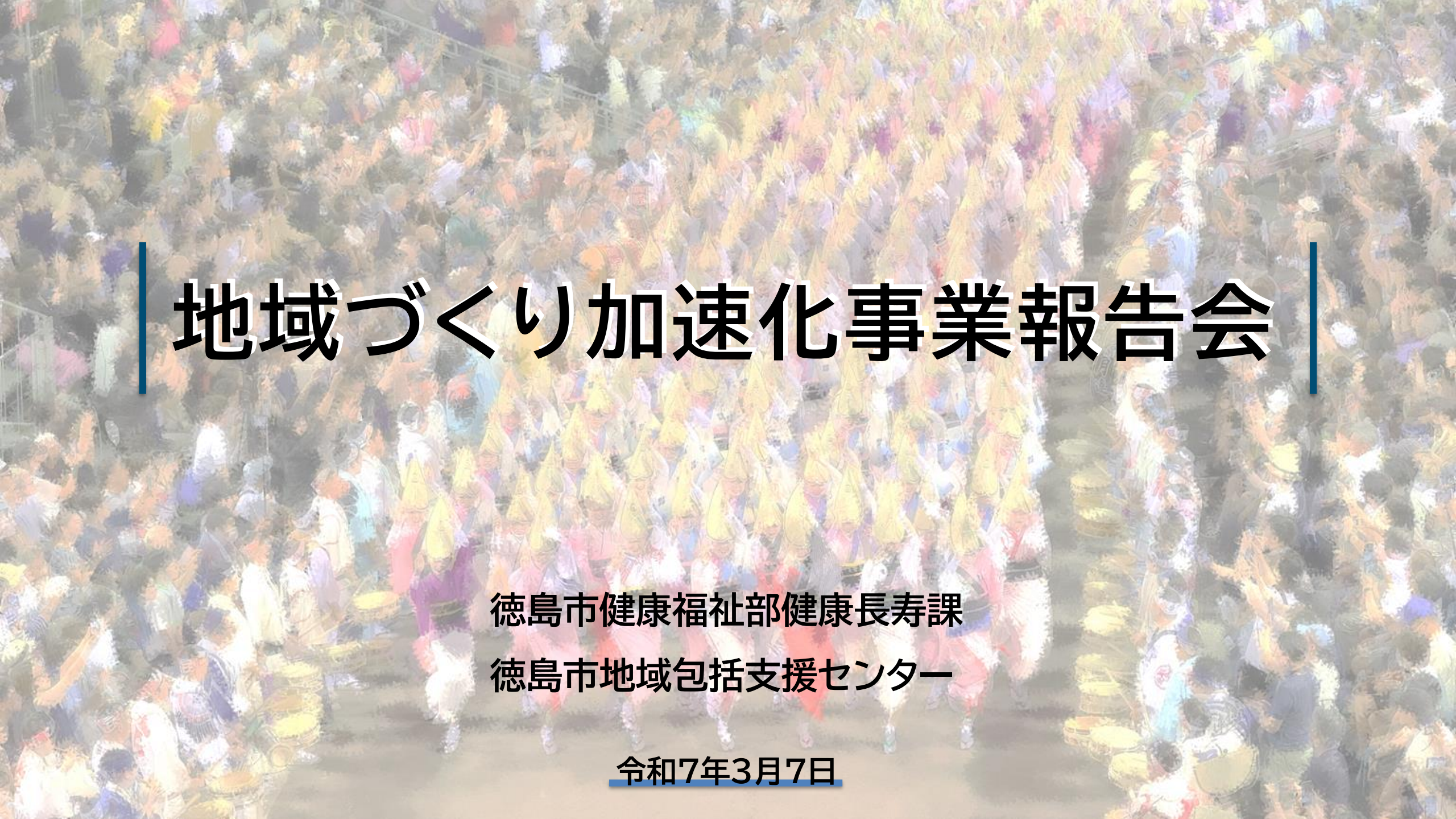




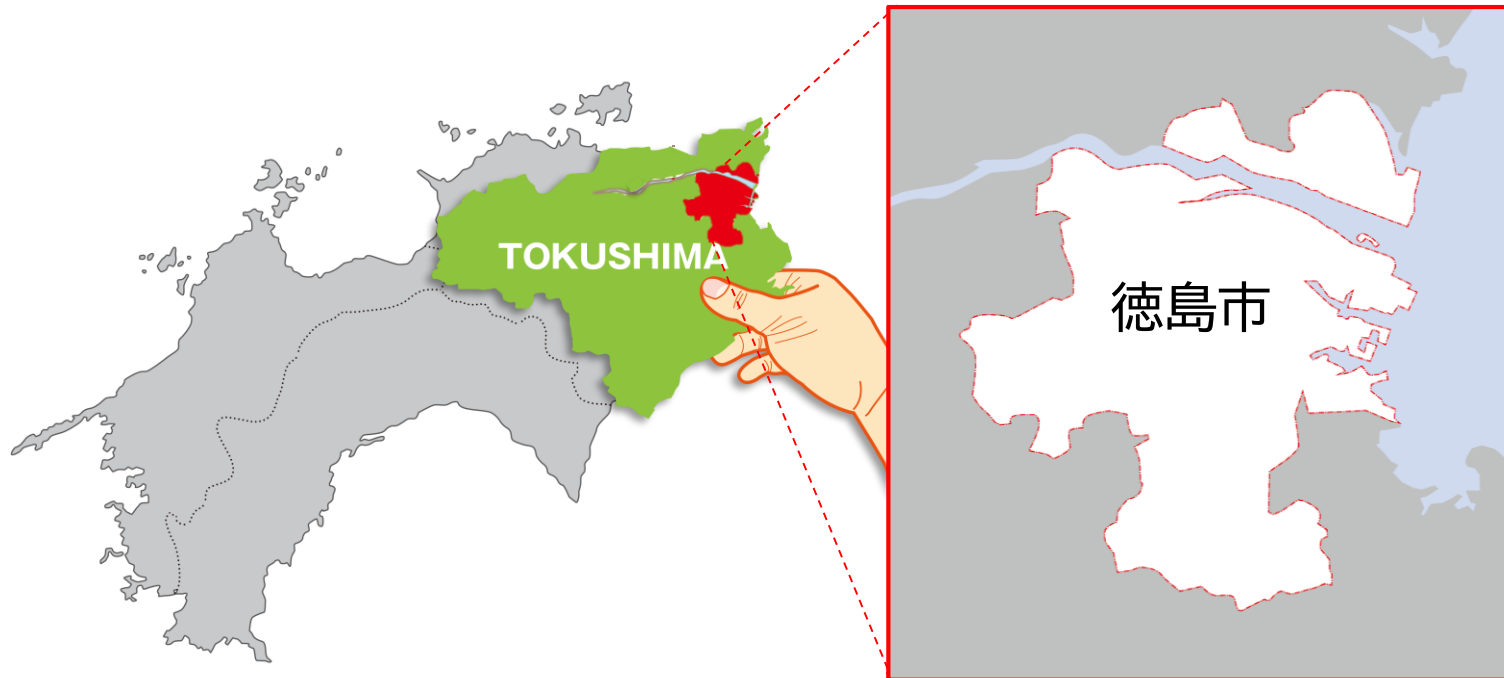
地域づくり加速化事業報告会

徳島市健康福祉部健康長寿課
徳島市地域包括支援センター

令和7年3月7日

徳島市の概要

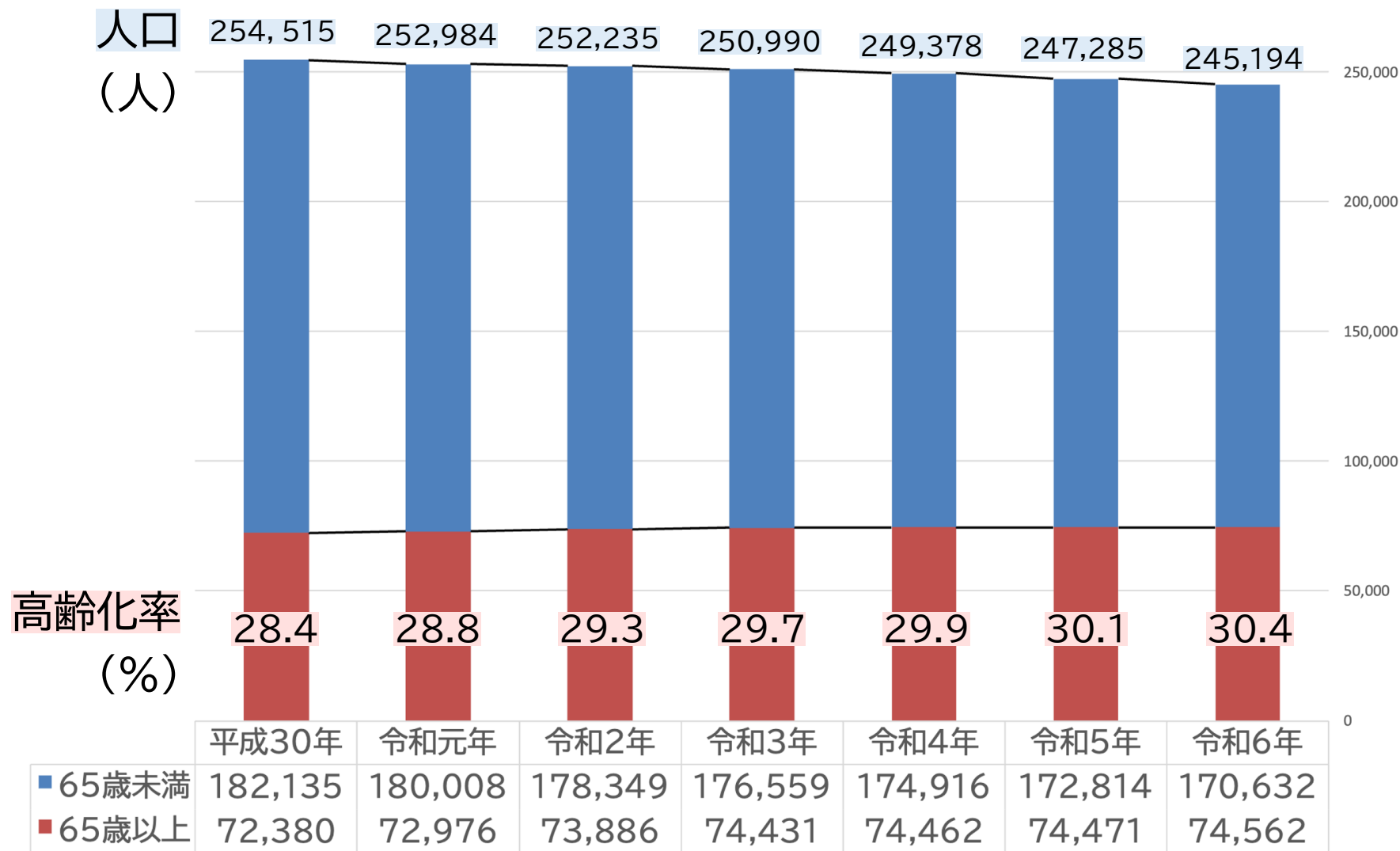
四国の右側 徳島県の東部
吉野川とその支流の三角州に発達



面積	191.52km ²
日常生活圏域	4圏域(地区は23地区)
地域包括支援センター	1箇所(市医師会に委託)
在宅介護支援センター	14箇所



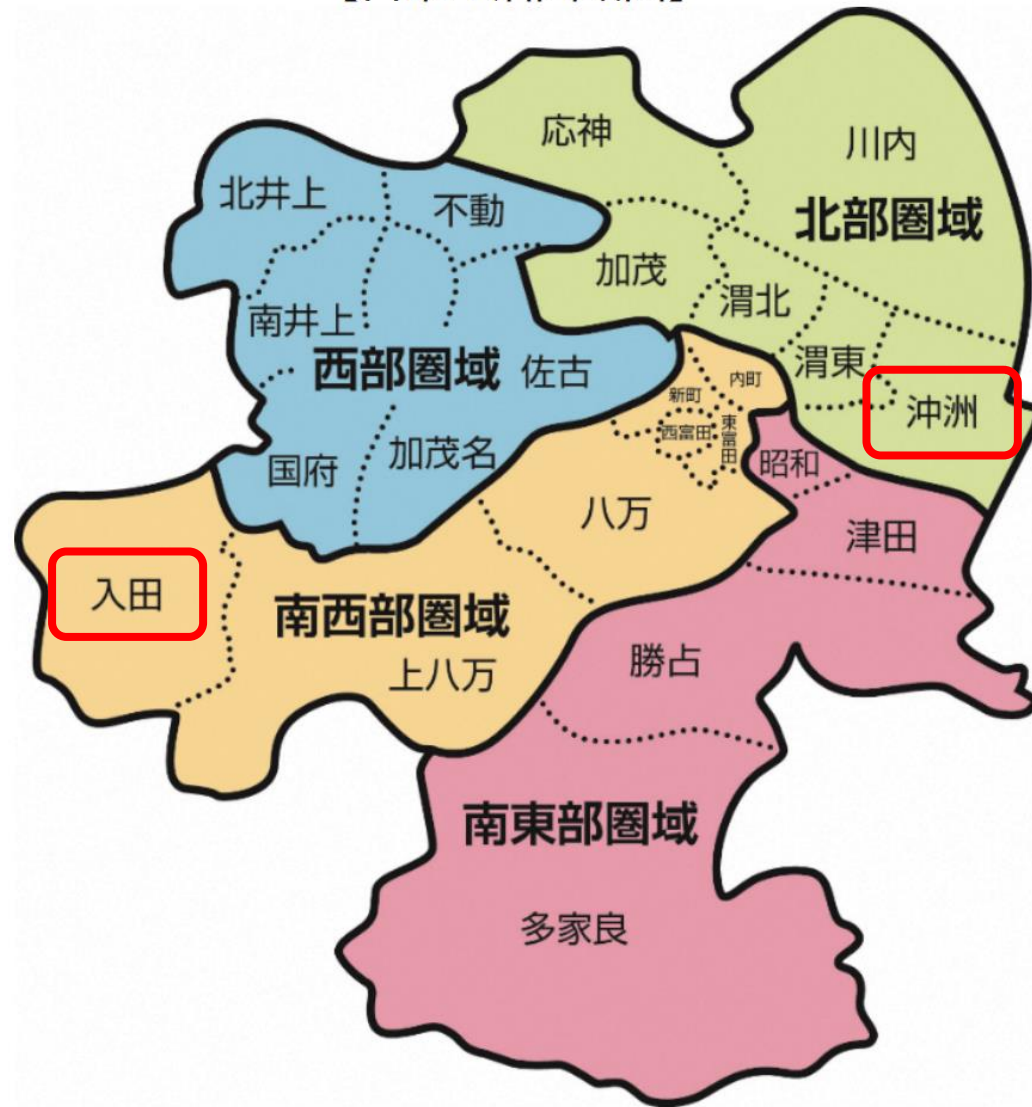
人口・高齢化率の推移



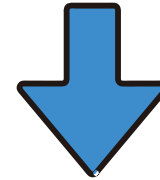
どれも10月1日時点

地域づくり加速化事業の概要

【日常生活圏域図】



沖洲地区・入田地区で
いきいき百歳体操をしている
2団体を伴走的に支援



通所型サービス・活動B(住民主体)
を立ち上げ



サービス・活動Cや一般介護予防
事業との連動の可能性に広がり

目次



I. 第1回目支援

II. 第2回目支援

III. 第3回目支援

IV. 支援を受けて

0.5次ミーティング(8/21)

支援チームの疑問



そもそもなぜ通所型の
サービス・活動Bなの？

3回目支援(1/20)

住民主体を実施した結果のフィードバックを受けて、次の年度に繋げていく。

2回目支援(11/27)

モデル団体を伴走的に支援し、住民主体を実施
する中での困りごとを相談する。

1回目支援(9/24)

住民主体を進める上で、成功事例や問題点などの
アドバイスを受け、軌道修正して開始の準備。

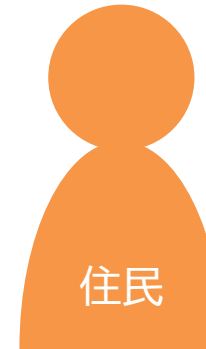
市が当初想定していた流れと関係者



市・包括



支援
チーム



住民



I. 第1回目支援

II. 第2回目支援

III. 第3回目支援

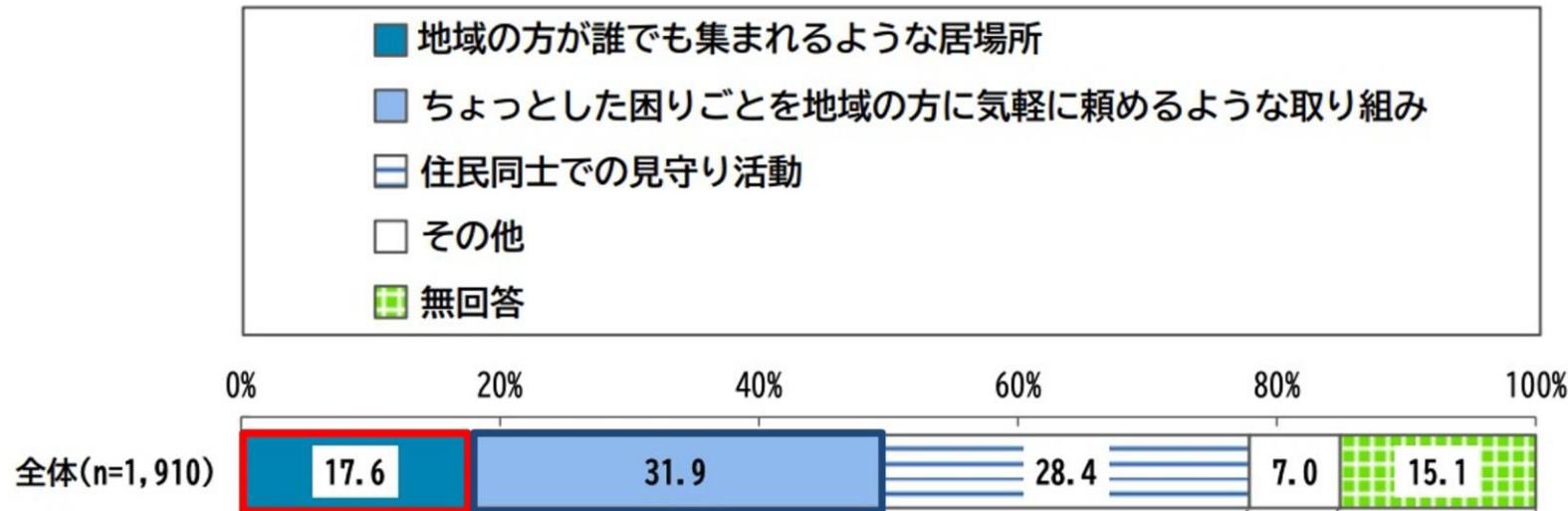
IV. 支援を受けて

目指す住民主体について共有①



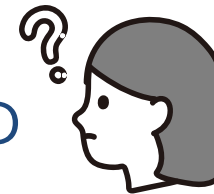
地域にあれば良いと思う支え合い活動について

徳島市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画(第9期)
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査



通いの場や
通所型サービス・活動B

有償ボランティアや
訪問型サービス・活動B、D



I. 第1回目支援

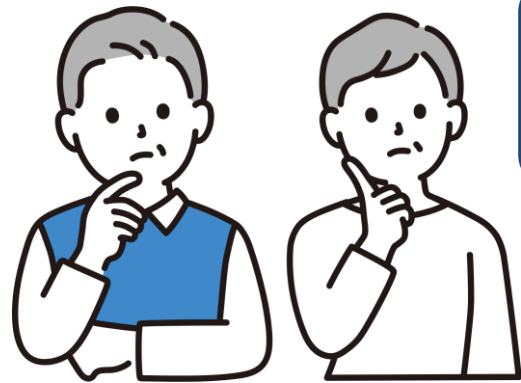
II. 第2回目支援

III. 第3回目支援

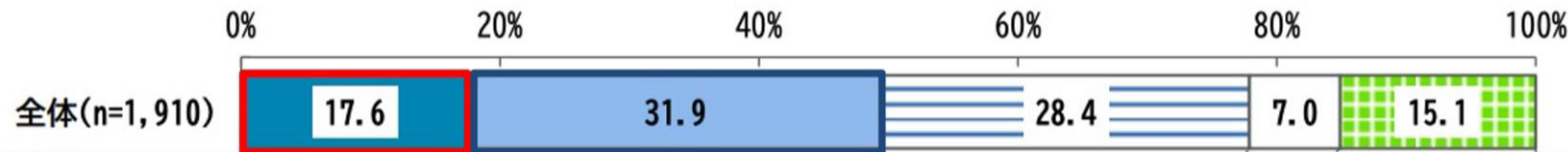
IV. 支援を受けて

目指す住民主体について共有①

? 地域の支え手(協議体)の声は？



正直な話、誰でも助けたいとかではなく
顔の見える関係性だから助けたい。



顔の見える関係性



ちょっとした困りごとを
助け合う



I. 第1回目支援

II. 第2回目支援

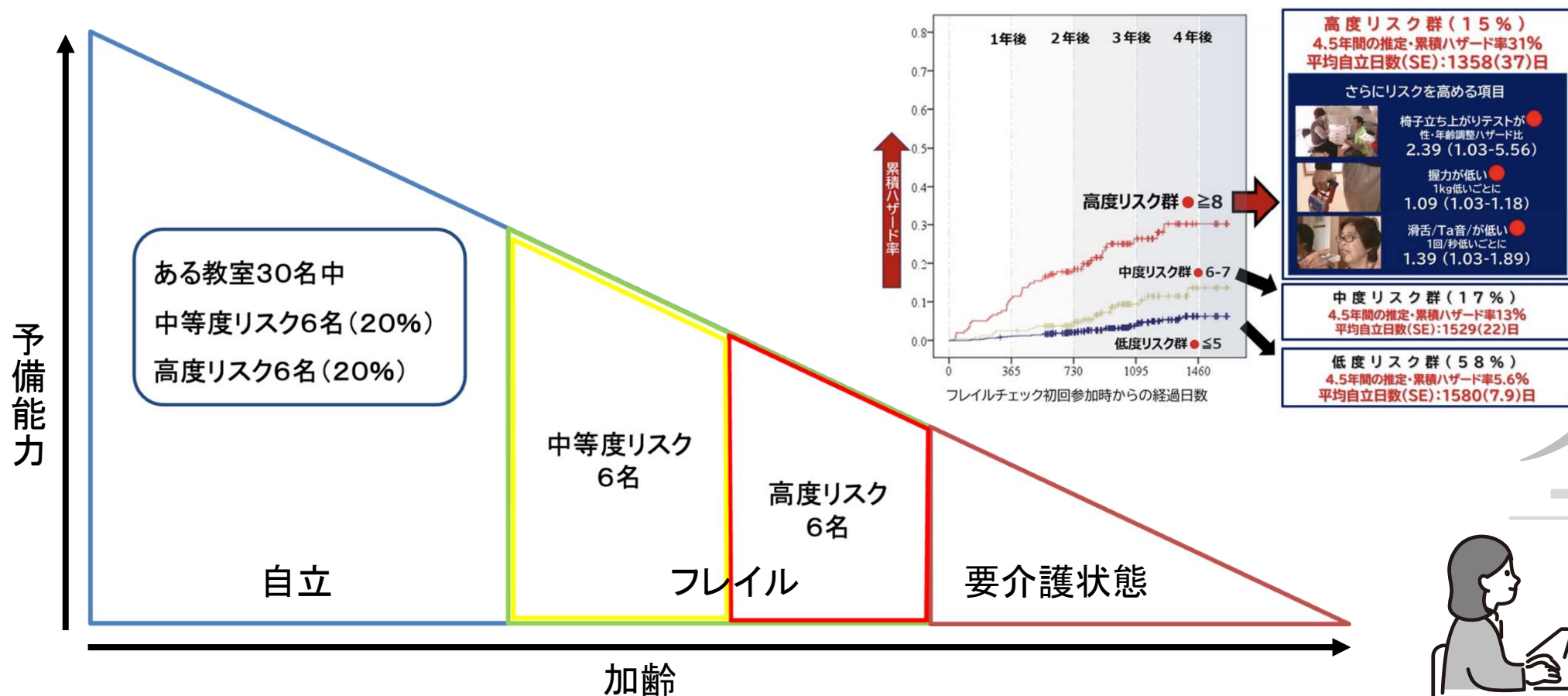
III. 第3回目支援

IV. 支援を受けて

目指す住民主体について共有②



フレイルチェックから見える通いの場での新規要介護認定・死亡リスク



集いの場/通いの場における包括的フレイル総合評価による段階別アウトリーチ体制構築に向けての調査研究事業
事業実施報告書
令和2年3月
東京大学 高齢社会総合研究機構 飯島 勝矢



I. 第1回目支援

II. 第2回目支援

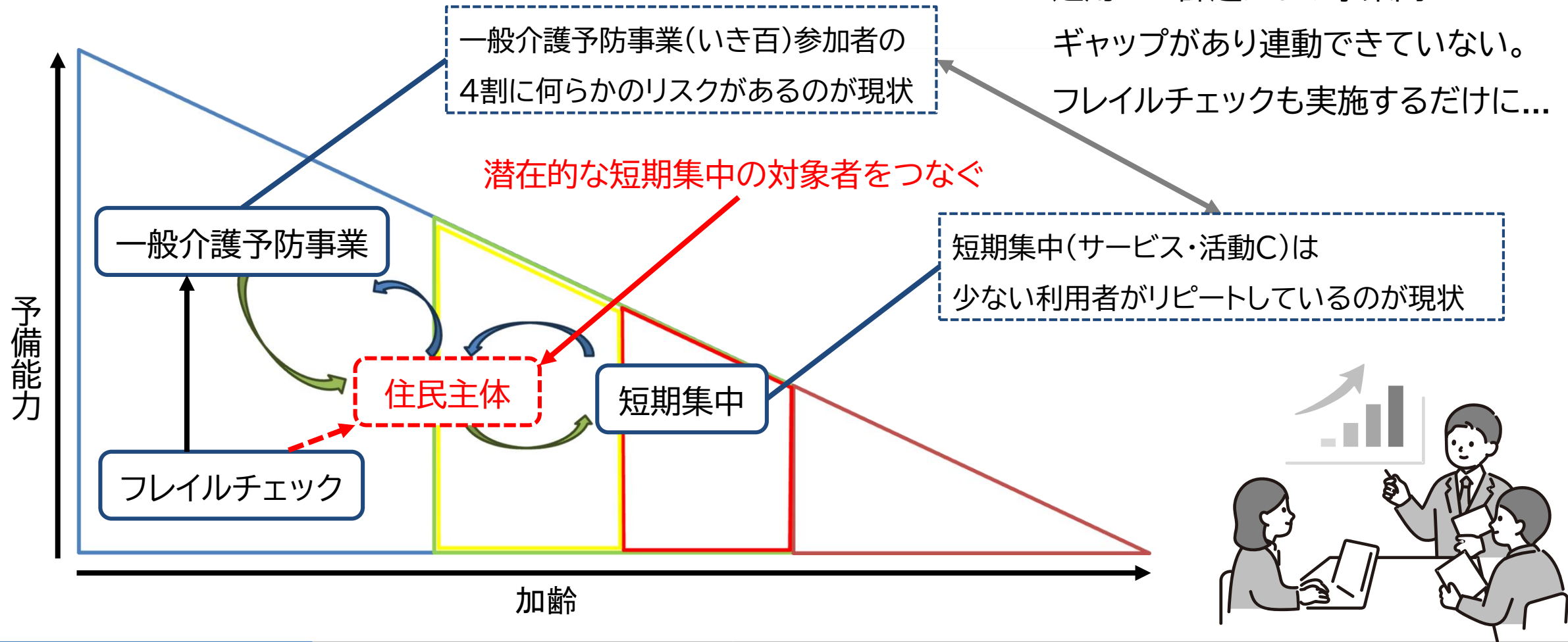
III. 第3回目支援

IV. 支援を受けて

目指す住民主体について共有②



リスクのある人への支援の現状は？



I. 第1回目支援

II. 第2回目支援

III. 第3回目支援

IV. 支援を受けて

目指す住民主体について共有③

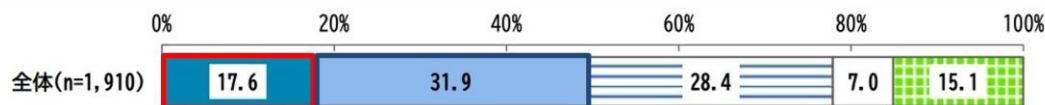
現状



支え合いによる地域づくりができていると思うか？

徳島市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画(第9期)
介護予防・日常生活圏域二ミズ調査

「そう思う」(3.9%)と「ややそう思う」(20.6%)を合計した『できていると思う』は **24.5%**

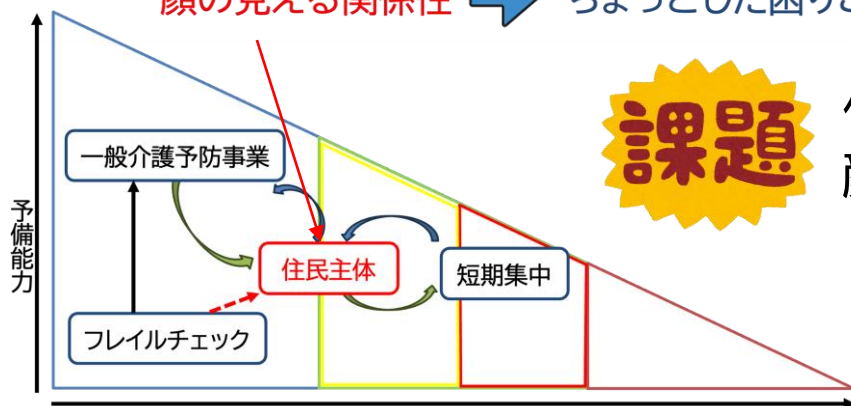


顔の見える関係性

→ ちょっとした困りごとを助け合う

課題

住民主体(サービス・活動B)で
顔の見える関係性をつくる



だからサービス・活動B



目標



地域の支え合い体制づくりを推進

要介護状態等となることの予防
要介護状態等の軽減・悪化の防止

地域における自立した日常生活の支援

I. 第1回目支援

II. 第2回目支援

III. 第3回目支援

IV. 支援を受けて

第1回目支援まとめ



市・包括と支援チーム間で住民主体サービス設定に向けて課題や目標を共有した。

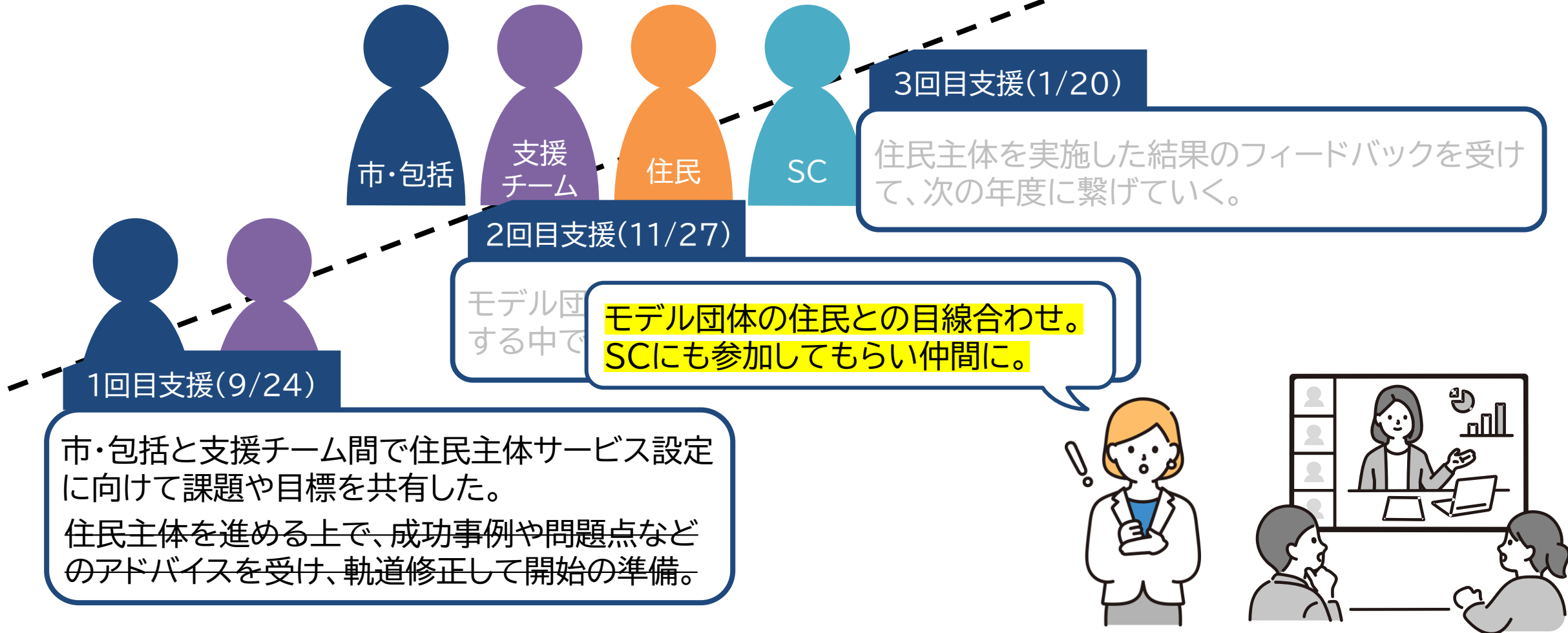


モデル団体を伴走的に支援し成功事例を作る。
(住民主体↔短期集中)



1.5次ミーティング(11/11)

モデル団体を伴走的に支援し成功事例を作る。
(住民主体↔短期集中)



I. 第1回目支援

II. 第2回目支援

III. 第3回目支援

IV. 支援を受けて

サービス・活動B開始後の変化①

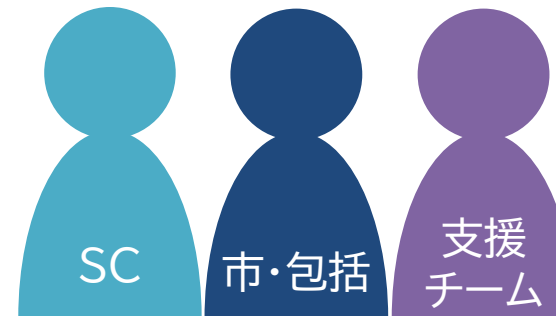


不足していた椅子を買うことができ、参加者が増えた。

保険をかけることができ、皆が安心し、喜んでくれている。

少し体の具合が悪くなり出てこなくなっていた人に、総合事業の対象となったことで改めて社会参加について力説し、世話人も見づかりカムバックできた。

少し要介護に近づいている方もいるし、認知症が進みかかっているのではと気になる人もいる。しっかり見守ってあげたいと思う。



関係者での目線合わせ①



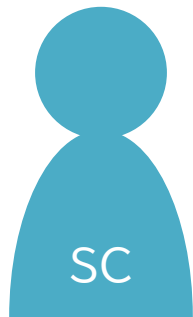
住民

スーパーが10km走らないとない。免許を返したらお世話もできなくなるのでどうしようかと思っている。

若い人も高齢者も来られるような場ができるとうい。

隣近所の付き合いがない。昔のような関わりができるような社会に。

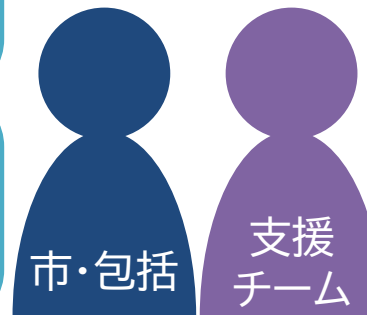
南海トラフ地震など、何か起きたときにはとにかく地域だと思っている。これからも地域に貢献できると良いと思っている。



SC

ちょっとした困りごとは地域の中、近所同士で解決できるようになれば良いと思う。自分の住んでいる地域では昔の近所付き合いも残っている。

ちょっと困った時に頼れる人がいる安心感は、災害の時などは特に必要だと思う。そのためにも地域とつながり生きていくことが必要と思う。



市・包括

支援
チーム



I. 第1回目支援

II. 第2回目支援

III. 第3回目支援

IV. 支援を受けて

第2回目支援まとめ

 実際に住民やSCの声を聞き、サービス・活動Bを進めていく必要性が共有できた。

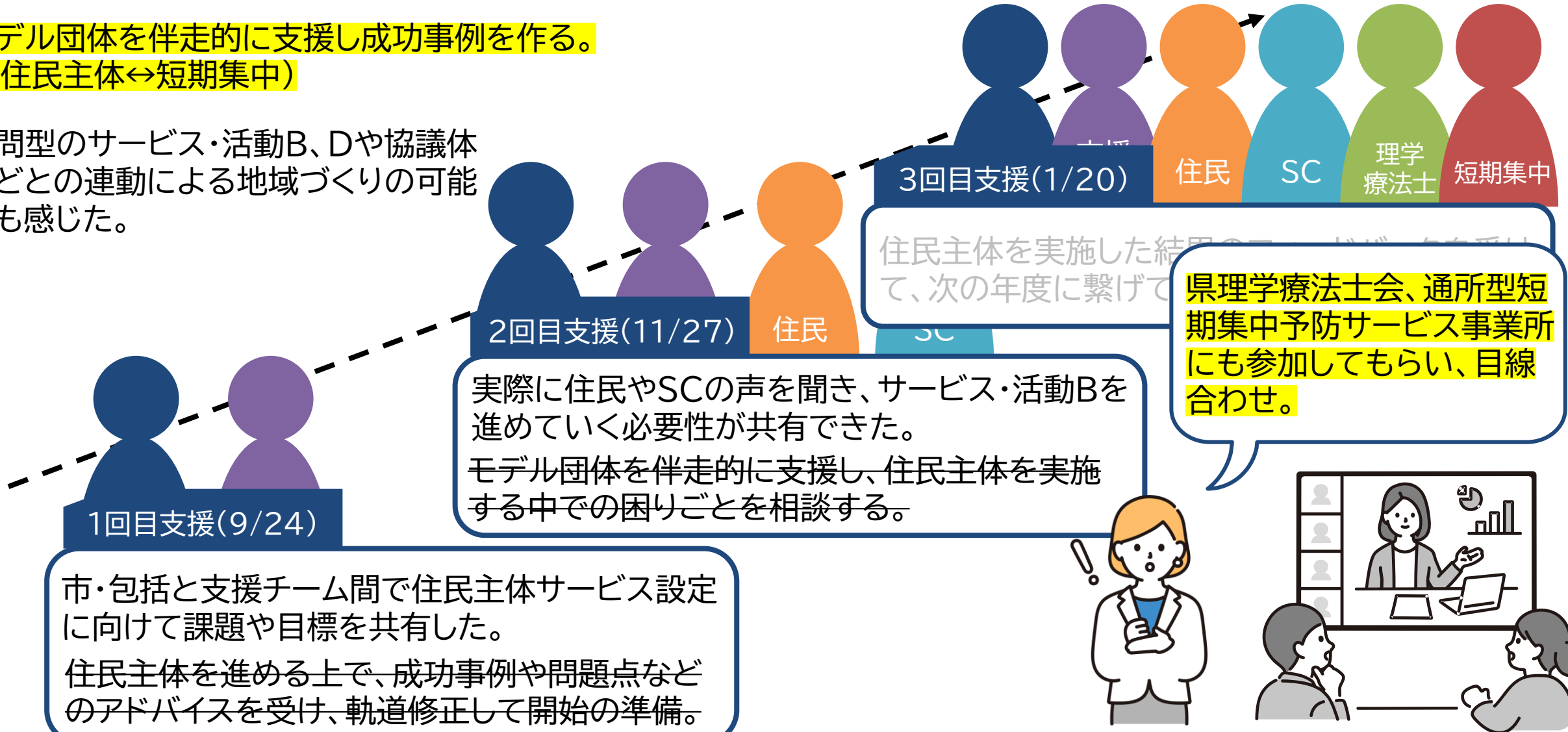
 声を聞く中で通所型のサービス・活動C(短期集中)との連動だけでなく、訪問型のサービス・活動B、Dや協議体などとの連動による地域づくりの可能性も感じた。



2.5次ミーティング(12/20)

モデル団体を伴走的に支援し成功事例を作る。
(住民主体↔短期集中)

訪問型のサービス・活動B、Dや協議体
などとの連動による地域づくりの可能性も感じた。



I. 第1回目支援

II. 第2回目支援

III. 第3回目支援

IV. 支援を受けて

サービス・活動B開始後の変化②



補助金で保険に入ることができ、今まで来ていなかった人も来られるようになった。

講師を呼ぶなど、活動の幅が広がった。

今までは単に通いの場として活動していただけだったが、住民主体となったことで、1年間の振り返りや今後のことも踏まえた総会をしたい。

補助金のために改めて銀行口座を開設し、その際に団体の規約を作ったり、役員も決めた。役員会を開き、今後の団体の方向性について5人の役員が同じレベルになれるように意思疎通を図った。



事業間連動の目線合わせについては...



関係者での目線合わせ②



住民

短期集中サービスについては初めて知った。



SC

介護保険分野のところで知識が足りないところがあったので、いろいろ勉強になった。



短期集中

どうしても事業所の中だと閉鎖的に中のことしか見えていなかったが、住民主体であったり、理学療法士会の活動であったり、協働ということで横の広がりが見えたので、外を向いて一緒に支えていけたらと思った。



市・包括

これまでの広報では事業について伝わっていないが、知らないだけでニーズはあると感じた。SCや専門職との関わりの中で必要な人に届いてほしい。



理学療法士

これまでも共有とか連携という言葉は聞いてきたが、今回住民主体が立ち上がり、短期集中につながったり戻ったりという体制が意識できた。



I. 第1回目支援

II. 第2回目支援

III. 第3回目支援

IV. 支援を受けて

第3回目支援まとめ

 サービス・活動B、サービス・活動C、一般介護予防事業の事業連動のニーズを関係者間で共有できた。

 連動をするにあたって情報や目標を一体的に共有し、関係者が協力する必要性を感じた。



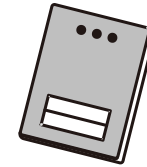
事業連動に向けて支援後の動き



短期集中利用前から卒業後までのマネジメントに専門職の関わり

- ・住民主体の場で半年に一回フレイルチェック
- ・ハイリスク者に対してその場でフィードバック

介護予防手帳により目標や成果を一体的に共有



専門職が介入し、短期集中を受ける上での要望や機能的な改善について本人と合意、共有できていれば、来ていただいた時に確認しやすい。

これまでは体力測定をしてもフィードバックの余裕が十分なかった。一体的に評価を共有できれば、次どうしようと話がしやすいし、我々が介入していることの効果もわかる。



短期集中



理学療法士



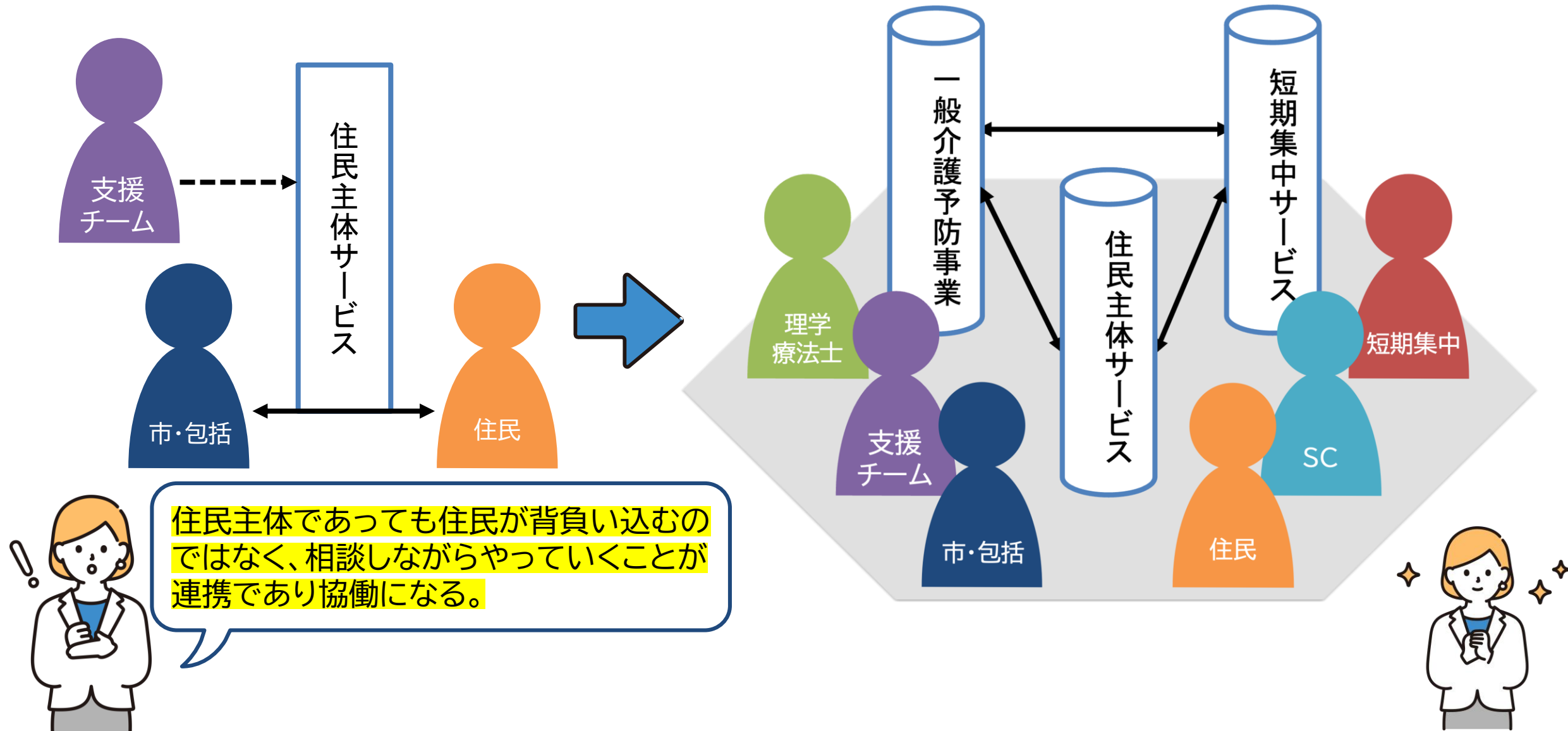
I. 第1回目支援

II. 第2回目支援

III. 第3回目支援

IV. 支援を受けて

地域づくり加速化事業まとめ①



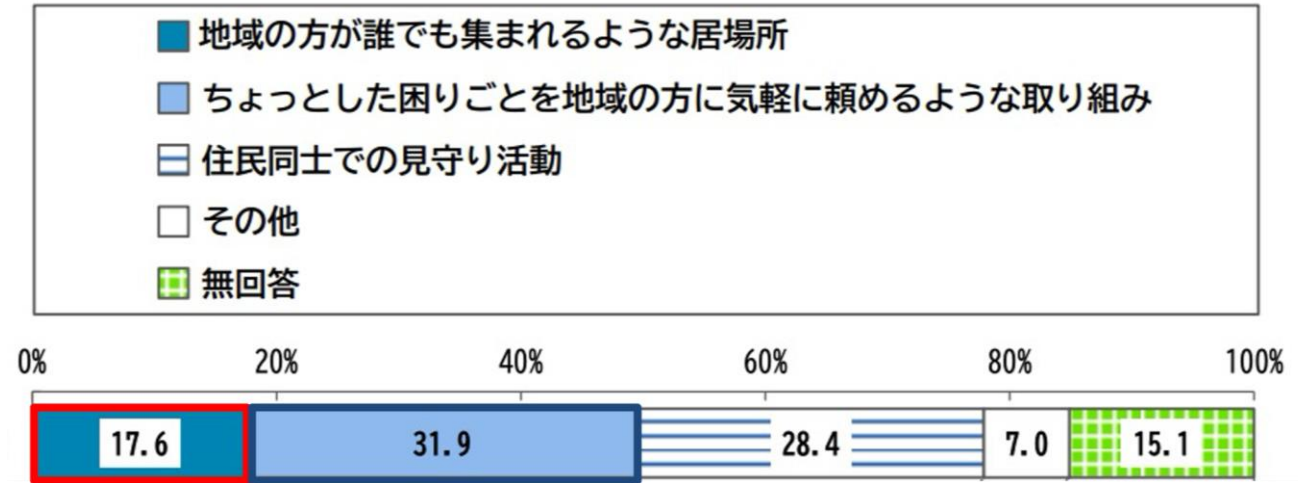
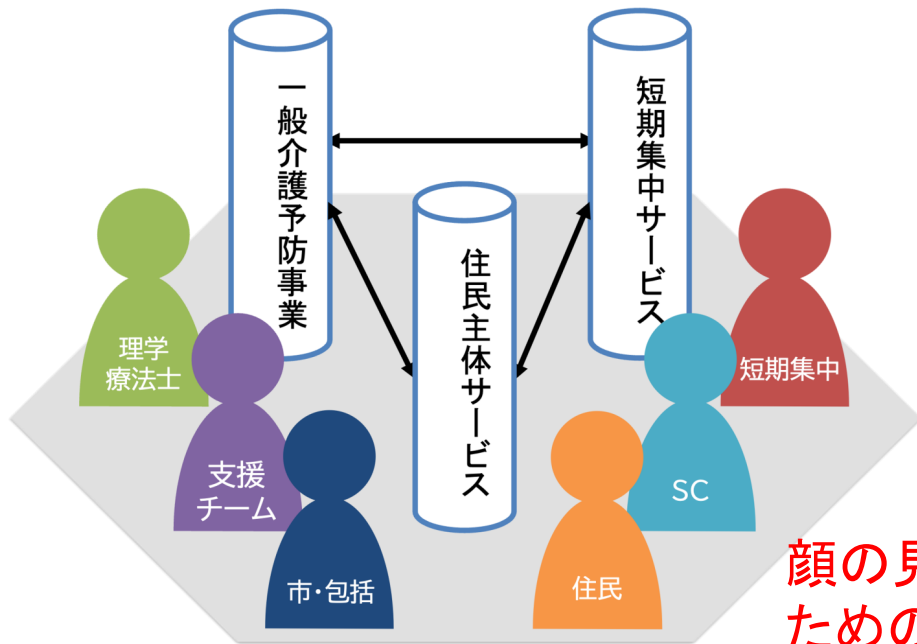
I. 第1回目支援

II. 第2回目支援

III. 第3回目支援

IV. 支援を受けて

地域づくり加速化事業まとめ②



顔の見える関係性の
ための手段の一つ

助け合いの体制作り
＋
他事業との連動も

市や専門職側は事業を意識しているということが
ある。住民はそれよりも助け合いの体制を作りたい
気持ちが強い。

移動支援

地域ケア会議

ケアマネジメント

協議体

I. 第1回目支援

II. 第2回目支援

III. 第3回目支援

IV. 支援を受けて

ご清聴ありがとうございました。

TOKUSHIMA-CITY

上勝町の取組報告と今後の展望

令和 7 年 3 月 7 日

上勝町役場住民課

樫本 崇史



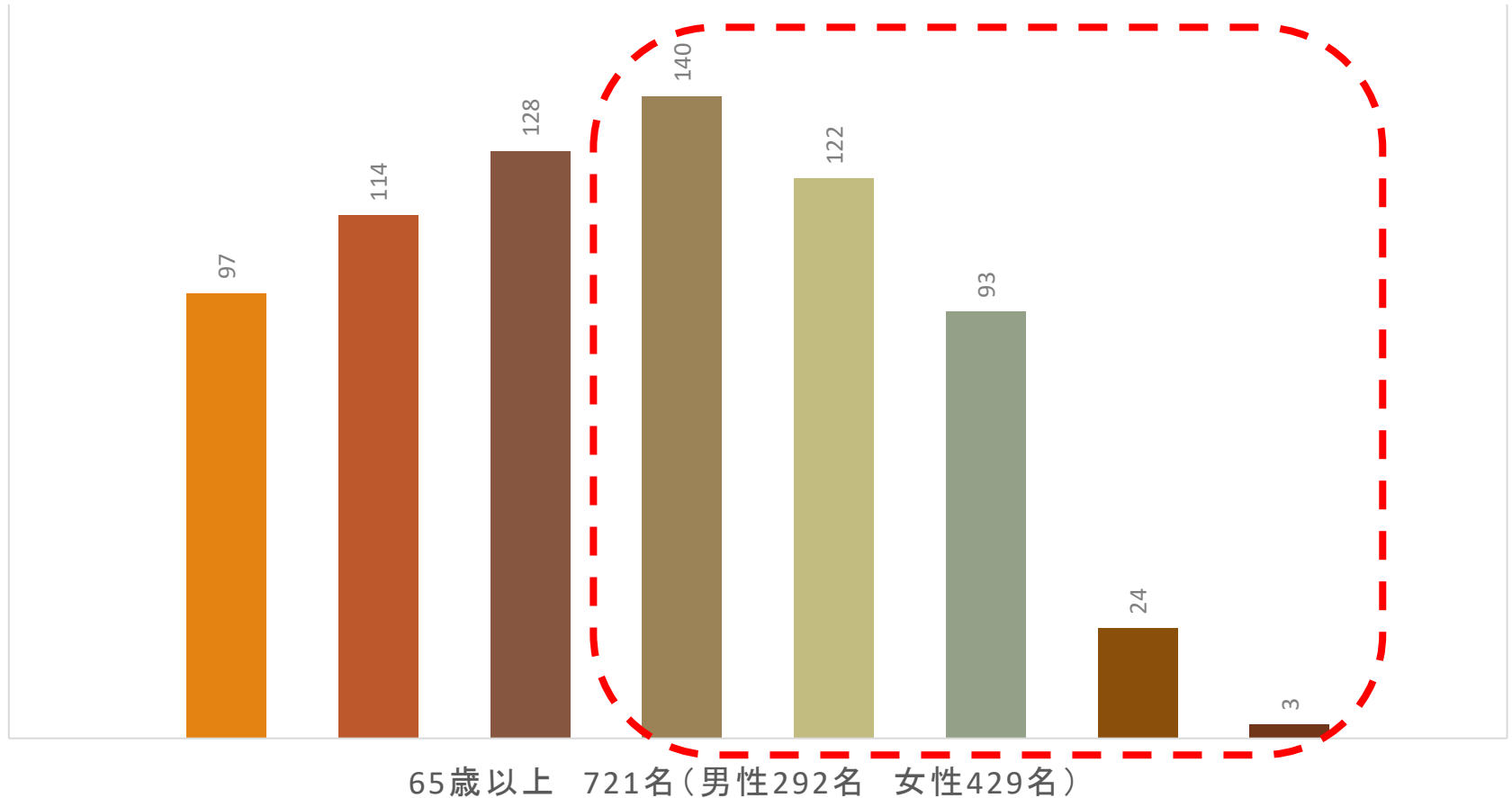
上勝町の概要

- ・ **人 口** 1,352人(男性 630人 女性 722人) ※R6年11月1日現在
65歳以上 721名(男性292名 女性429名) (高齢化率53.33%)
- ・ **世 帯 数** 717世帯
- ・ **高齢者世帯** 214世帯(※70歳以上の高齢者のみ世帯)
内1人暮らし高齢者の世帯は125世帯
- ・ **面積** 109.63km(88%が森林うち80%が人工林)
標高100～700m
- ・ **歴史** 昭和30年、高鉾村と福原村が合併し現在の上勝町が誕生
昭和61年 彩事業スタート
平成15年 ゼロ・ウェイスト宣言
- ・ **産業** 農業(彩・香酸柑橘など) 林業

上勝町の人口構成(65歳以上)

※R6年11月1日現在

65～69歳 70～74歳 75～79歳 80～84歳 85～89歳 90～94歳 95～99歳 100～104歳



65歳以上人口において80歳以上が約5割を占めている

令和5年度老健局主導型地域づくり加速化事業

○第1～3回（令和5年9月・12月、令和6年1月）

○第1回目（令和5年9月）

厚生労働省、四国厚生支局、アドバイザー、徳島県、地域包括支援センター、町社協、一般社団法人、教育委員会、町担当者が参加し、「上勝町が目指すべき姿」について議論を行いました。議論を進めていくなかで、高齢者における生活実態や課題が浮き彫りになり、「車に乗れなくなったり怪我や病気で一度入院してしまうとそのまま施設に入所してしまう」状況があることが見えてきました。



○第2回目（令和5年12月）

2回目からは、民生委員、老人クラブ、住民も新たに参加いただきました。2班に分かれ「上勝町の目指す地域像の実現に向けて」をテーマにグループワークを実施し、地域資源の拾い出しや整理、今後町にあったらいいなと思うもの等の意見を各班出し合い発表、共有を行いました。話し合いの中で、普段あまり気づけなかった地域資源に気づくと共に、町に「虚弱」の方が集まれる居場所が少ないことが分かりました。



○第3回目（令和6年1月）

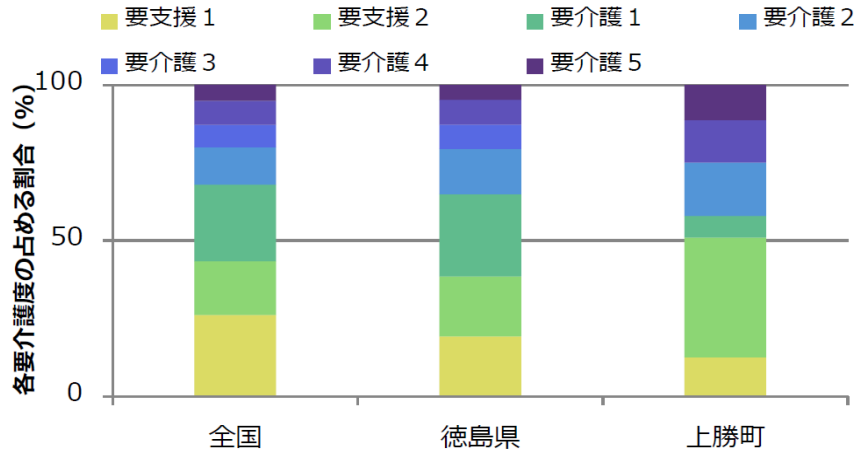
2回目の後、実際に徒歩圏内で行くことが出来る集落の小さな単位でミニサロンを実施してみました。

3回目では、前回と同じくグループワークにて「上勝町の高齢者がいつまでも元気で居続けられる、居場所とは」をテーマにミニサロンを今後町全体に広げていくための「作戦」について、みんなで意見を出し合い発表、共有を行いました。



上勝町の現状（見える化システムより）

調整済み新規要支援・要介護認定者の要介護度別分布（令和4年(2022年)）



（時点）令和4年(2022年)

（出典）厚生労働省「介護保険総合データベース」（令和5年9月10日時点データにて集計）および厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報（令和3,4年度のみ「介護保険事業状況報告」月報）および総務省「住民基本台帳人口・世帯数」 ※本指標は自治体向けのため取り扱いに注意してください。

	全国	徳島県	上勝町
要支援1	26.2	19.3	12.5
要支援2	17.2	19.2	38.5
要介護1	24.6	26.4	7.0
要介護2	12.0	14.5	17.0
要介護3	7.2	7.9	0
要介護4	7.7	7.9	13.7
要介護5	5.2	4.8	11.3

これらのデータ等からみた
上勝町の高齢者像は？

平均85歳くらいから介護認定を受ける方が多い

新規認定の方は要支援2くらいのレベルの方が多

元気な方が
多い？

足腰の痛い人
は多いようだ

必要なサービスが
利用できている？

ギリギリまで頑
張っている？

みんなどんな
暮らし方だろう…

皆で地域の状況や課題を共有しよう

介護予防に関する課題 (要介護認定の新規申請者の状況から)

- ・ 申請の理由として「下肢筋力低下による申請」が多くみられる。

⇒今後、筋力アップに繋がる介護予防を早期から展開することで、筋力の維持が図れるのではないか。

- ・ 新規申請による認定については、要支援 2 及び要介護 2 に認定される方が多い。⇒元氣を取り戻せる可能性や維持の必要性がある。

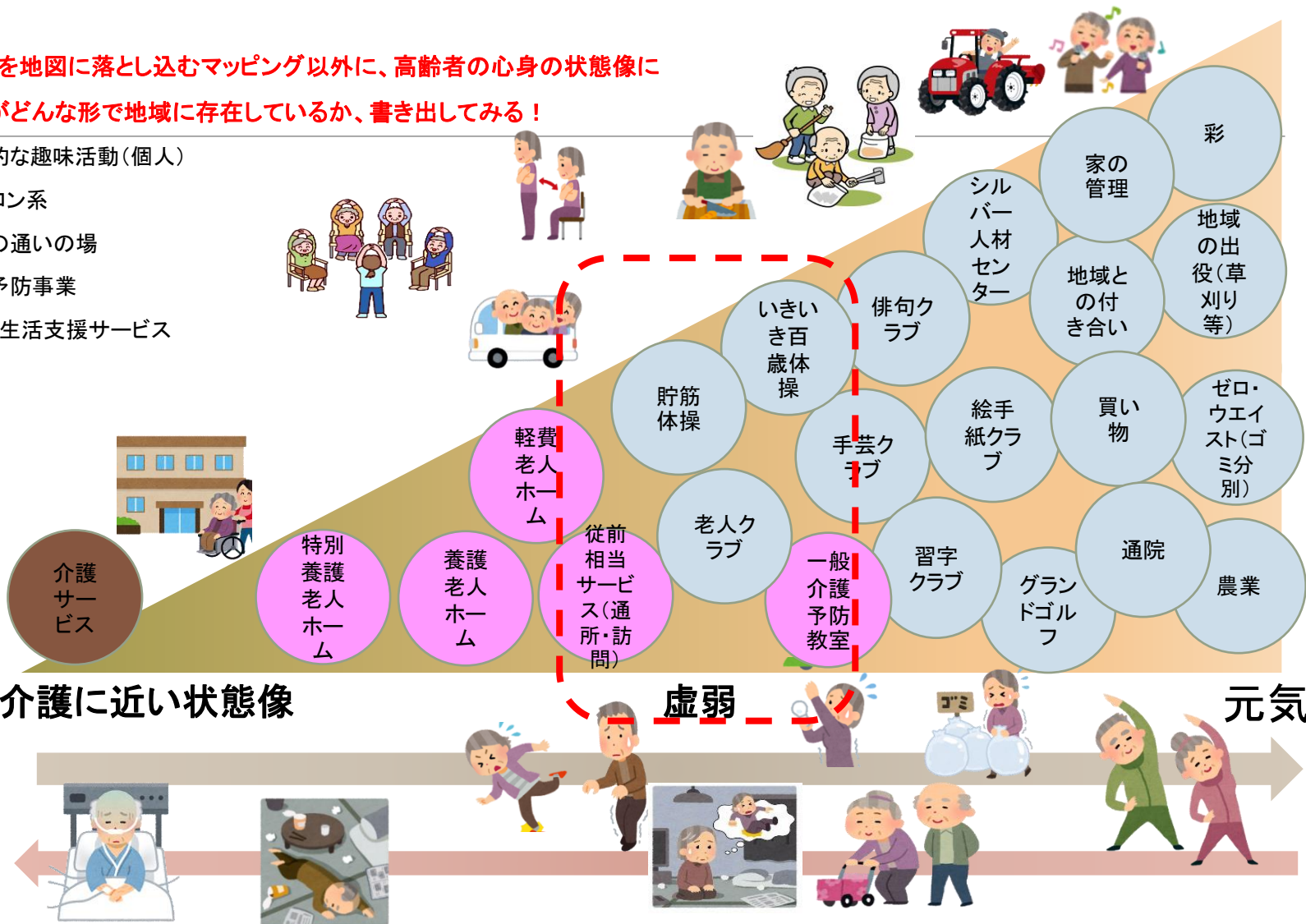
- ・ 申請される年齢については、80歳代（80～89歳）の割合が高い。

⇒少しでも元氣な暮らし（健康寿命）を伸ばすことが大事。

わがまちの地域の資源を書き出してみよう

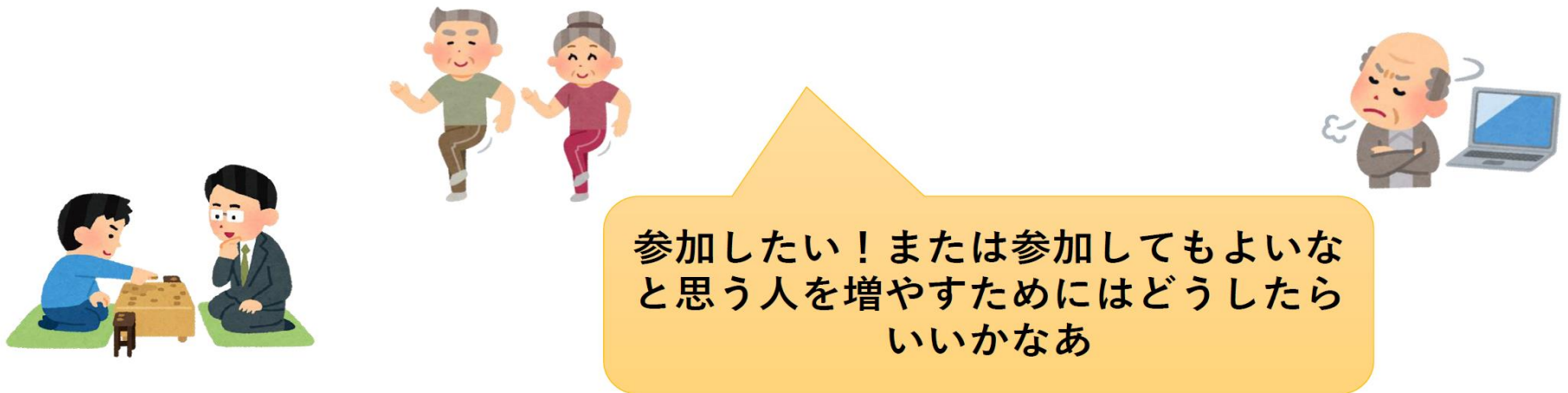
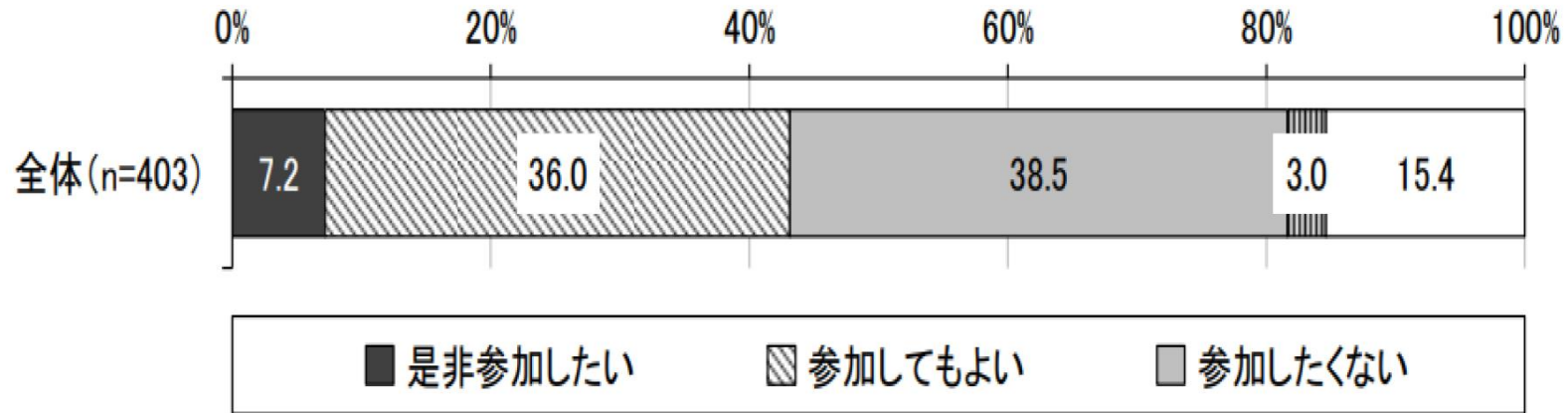
地域の資源を地図に落とし込むマッピング以外に、高齢者の心身の状態像に応じたものがどんな形で地域に存在しているか、書き出してみる！

- ◆生涯学習的な趣味活動(個人)
- ◆高齢者サロン系
- ◆住民主体の通いの場
- ◆一般介護予防事業
- ◆介護予防・生活支援サービス
- ◆その他



資料: 地域づくりに必要な関係機関・関係者の連携・事業間連動 (国立保健医療科学院研修: R4.9.26) 資料より一部抜粋

地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか



介護予防に関する課題（まとめ）

- ・新規申請にて認定を受けられた方の約3割は介護サービスを利用されていない。

⇒地域には、要介護予備軍の方も潜在的に多くおられる可能性があるため、今後住み慣れた地域で末永く暮らしていくためにはどのような事が考えられるか検討する必要がある。

- ・「わがまちの地域資源」を書き出してみte気づいたこと

⇒虚弱な方への地域資源がもっと必要ではないか。



介護サービス以外で、要介護予備軍の方が住み慣れた地域で、また徒歩圏内で介護予防出来る通いの場（サロン）があれば、日頃から身体機能の維持・向上や認知症予防、フレイル予防が出来るのではないかな？

また、地域の住民さんからも「小さな単位で集まる場所」を望まれる声もあるため、令和6年1月より実際にミニサロン（巡回健康サロン）を行ってみることとした。

令和6年度地域づくり加速化事業(フォローアップ)

○第1回目（令和6年9月）

四国厚生支局、アドバイザー、徳島県、地域包括支援センター、町社協、一般社団法人、理学療法士、老人クラブ、民生委員、住民、町担当者が参加し、「上勝町の住民が住み慣れた場所で末永くいつまでも元気に暮らし続けるために」という目標に対して、皆さん自身が「どんな上勝になったらいいか」についてグループで議論を行い、発表にて共有しました。

意見の中では、「移動支援・買い物支援の充実」や「集まって運動が出来るジムが欲しい」、「特技を持った方と手伝いが欲しい方とを繋ぐ人材マッチングの仕組み」など様々な意見が挙がりました。



巡回健康サロンの内容（毎月2箇所）

①血管系疾患予防

- ・ 血圧測定と治療状況の確認やその他健康相談

②筋骨格系疾患予防

- ・ 理学療法士による体の個別相談
- ・ 腰痛予防教室、エクササイズ教室等（住民のニーズ追加）

③その他関係機関との協同事業

- ・ eスポーツ体験（社協）
- ・ 介護サービス等に関する相談、貯筋体操（地域包括支援センター）
- ・ でり・ばりキッチン 阿波ふうど号によるフレイル予防のメニュー試食会及び栄養・運動講座（徳島県・地域包括支援センター）
- ・ 音楽介護予防教室（地域包括支援センター）
- ・ 低栄養予防及び認知機能低下予防講座（徳島県）





ミニサロン（巡回健康サロン）の様子（高公・ふれセン）



ミニサロン（巡回健康サロン）の様子（定住・ふれセン）

E-スポーツ（太鼓の達人・ボウリング等）を実施！

○第2回目（令和6年11月）

2回目からは、新たに趣味活動のクラブの方も参加いただきました。

今回は、今まで実施してきたミニサロンの開催状況を落とし込んだマップに、「現在町内にある高齢者の居場所や集まれる所、また今後あったらいいなと思う場所」等をグループで話し合い、模造紙にまとめ、共有しました。

地域の新たな資源に気づくと共に、まだ有効活用できていない資源、また今後地域に欲しい場所などが見えてきました。



○第3回目（令和7年1月）

3回目では、1回目、2回目の内容のまとめとして、皆さんの意見を盛り込んで作成したマップを活用しながら、今後「地域の人々で取り組むこと」「関係機関で取り組むこと」「行政で取り組むこと」、そして「いつまでも元気に暮らせる上勝町にするために目指すこと」をグループごとに話し合い、発表し共有しました。

またグループワークの最後には、各グループで出てきた意見について、『いいね！』の投票を一人3票にて行いました。

グループごとに様々な意見が出る中、
『いいね！』の投票が多かったのが、

- 特技の活用 13票
- 飲み会OKの居場所 10票
- なんとなく集まれる場所 10票
- 集まる機会（カラオケ・会食・イベント）10票
- 世代を越えた交流の場 7票

など、「地域で取り組むこと」についての意見
に対しての投票が多く見られました。



○第3回目（令和7年1月）

また、目指すこととして出てきた意見として、「つながる」や「あつまる」という地域づくりに欠かせないキーワードがありました。

意見をまとめると、地域の皆さんが地域での居場所づくり、多世代でのつながり、顔の見える関係性など、人と人の『**つながり**』を求めていることが改めて分かりました。

最後に、2月23日に開催される『上勝なんでも発表会』に向けて、地域の皆さんと共に内容を考えたり、共同で企画を行いました。

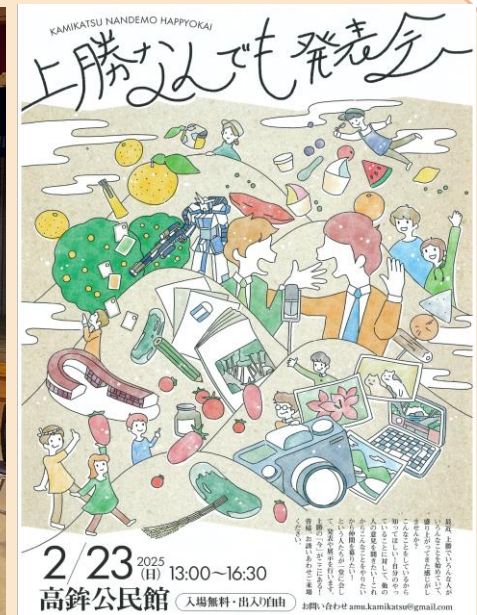


○上勝なんでも発表会（令和7年2月）

2月23日（日）に一般社団法人 amuが主催する『上勝なんでも発表会』に参加し、地域づくり加速化事業にて取り組んだ内容について、地域の住民の方に向けて発表させていただきました。

当日は、小さなお子様から子育て世代、また高齢者に至るまで様々な年代の方が参加されており、「普段あまり聞くことが出来ない話が聞けて良かった」との感想をいただき、この発表が介護予防について知る良いきっかけになったのではないかと感じています。

今後も、地域との「つながり」を大切にし、新たな仲間を見つけながら地域と一緒に『地域づくり』を進めていきたいと思っています。





**つながって
実施した事業**



令和7年度からの新しい取組み

つながりを生かして…



□上勝町住民課、一般社団法人ひだまり、上勝町地域包括支援センター協同で、毎月1回各地区の集会所で**いきいき百歳体操**を行い、体力測定を実施していくことで**身体機能の向上が目に見えるように**していきます。

「元氣倶楽部いくで～(行くDAY)」を実施する予定です！



今後の方針とまとめ

「上勝町の住民が住み慣れた
場所で末永くいつまでも元気に
暮らし続けるために」

- ①居場所を増やす。
- ②通いの場を小さな単位で広めていく。

ポイント

- ③自立支援に向けたケアマネジメントができるよう地域ケア会議を見直していく。
- ④「介護予防」について啓発する。



- ・住民さん達との協働で上勝町全体にミニサロン（巡回健康サロン）を広めていきます。（集落ごとの小さな単位）
- ・介護予防事業の見直しと介護サービスに頼らない事業展開をめざします。
- ・介護予防の啓発（地域住民に向けた研修会等の実施）
- ・地域におられる虚弱の方について、自立支援に向けたケアマネジメント（ケアプラン点検や 地域ケア会議における個別事例検討）をしっかりと行い、身体機能を可逆的に戻していけるように各関係機関と連携しながら実施していきます。

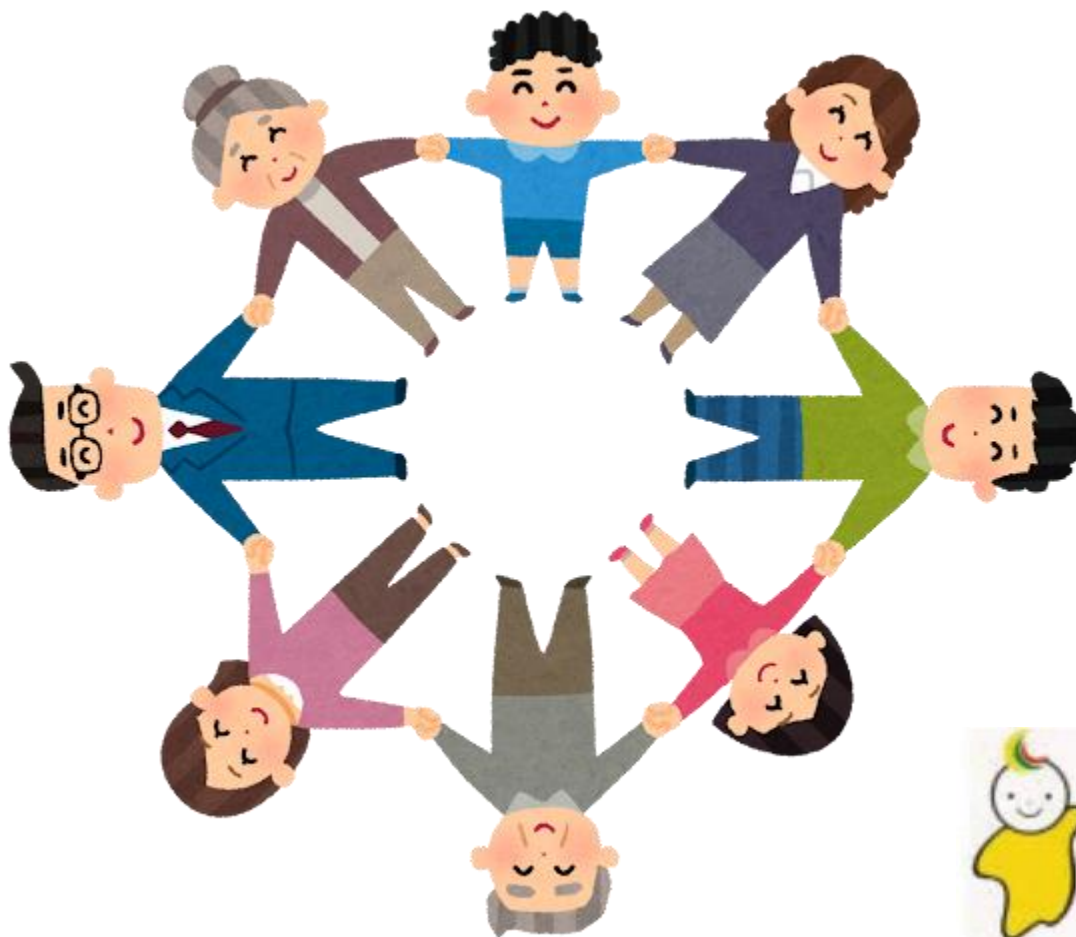
最後に加速化事業を通じて…

・地域づくり加速化事業の支援を2年間受けてみて、普段知ることが出来ない地域の課題や実情・実態について、地域住民の方々や各関係機関とともに情報を拾い出したり、解決策について考えたり、介護予防に対しての思いを一緒に共有することができたりと、介護保険の担当一人だけでは到底実施することができないことを事業を通じて実践することができ、地域づくり加速化事業を受けてみて改めて良かったと感じています。

また、今までも上勝町は小さな自治体なので、地域とのつながりは強い方だとは感じていましたが、今まで以上に地域との『**つながり**』がより強いものとなりました。今後も引き続き、この関係性を大切にし、『地域』としっかり『**つながり**』ながら、事業を実施していきたいと考えています。



ご清聴ありがとうございました。





R6年度地域づくり加速化事業報告会
**介護予防・日常生活支援総合事業等の
充実のためのアドバイザー派遣による
伴走支援を通して**



徳島県 保健福祉部 長寿いきがい課

徳島県の概要

- 面積 4,147.00平方キロメートル（R6.7.1）
- 市町村 24市町村（8市15町1村）
- 人口 685,357人^{※1}（R6.10.1）
うち65歳以上人口 235,887人^{※1}（R6.10.1）
- 65歳以上の年齢別割合 35.9%^{※1}（R6.10.1）
- 世帯数 309,885世帯^{※2}（R6.10.1）

※1 徳島県統計課 徳島県年齢別推計人口（令和6年10月1日現在）より

※2 徳島県統計課 徳島県推計人口（令和6年10月1日現在）より

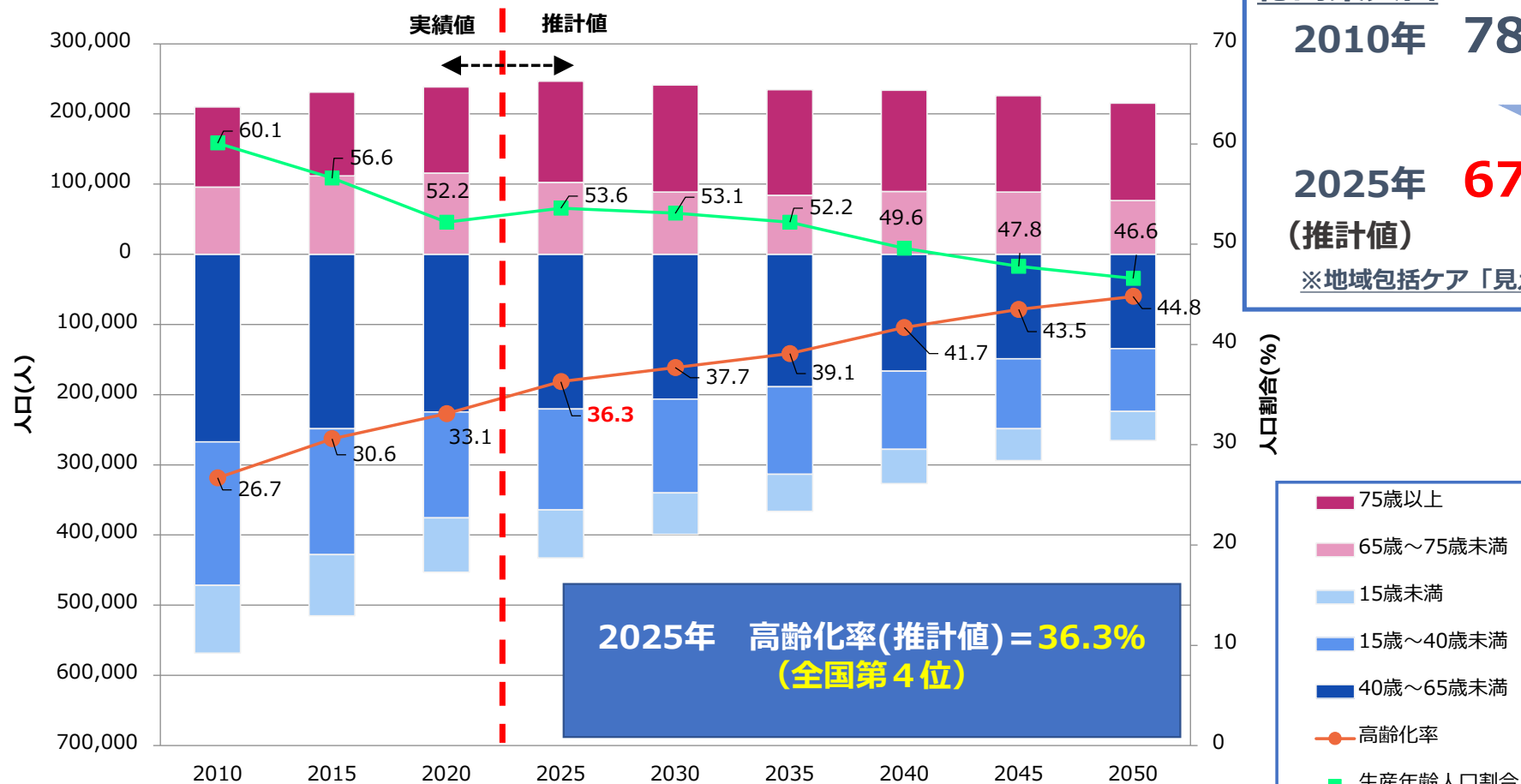
令和6年度地域づくり加速化事業

2市町の参加が決定

- ・徳島市
- ・上勝町（令和5年度から継続）



徳島県の人口の推移及び推計



徳島県人口

2010年 785,491人

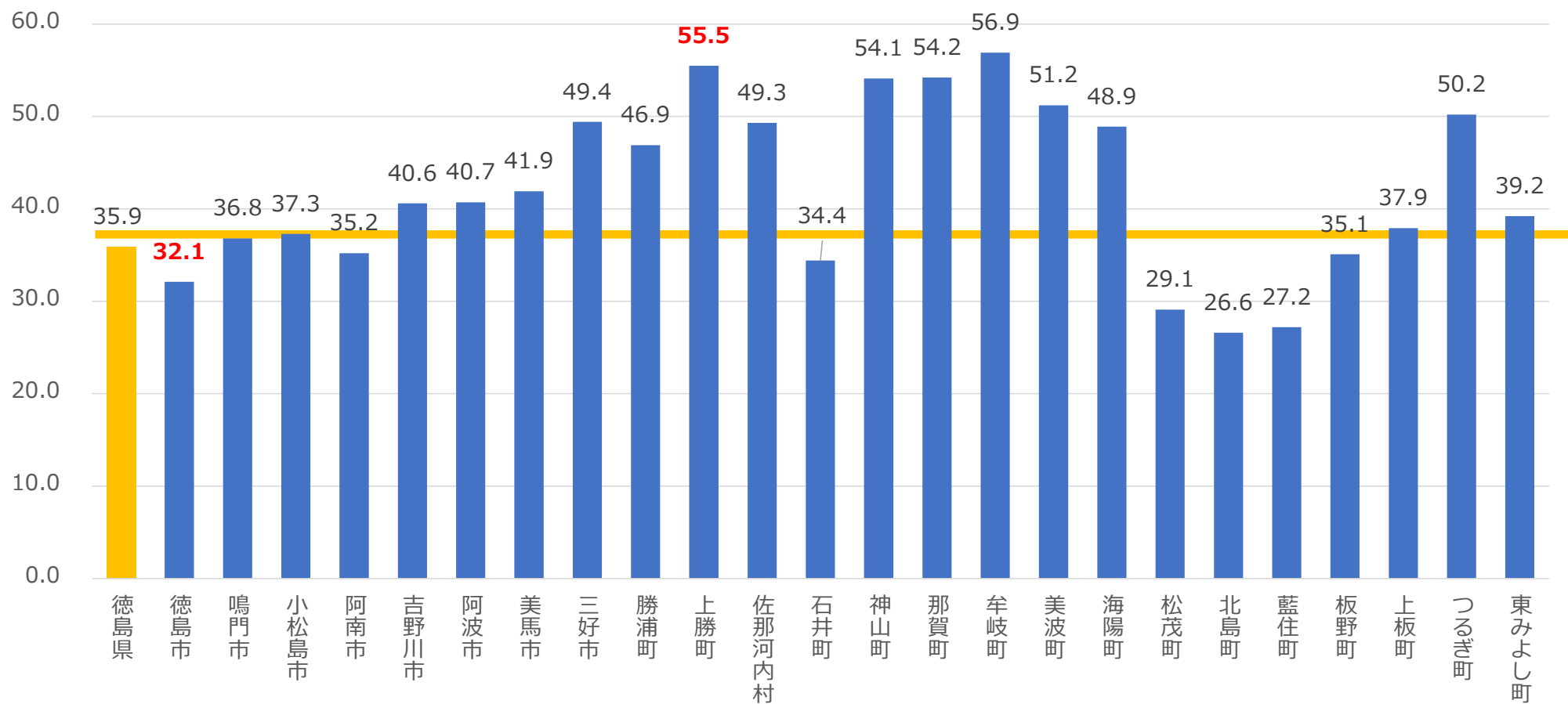
2025年 679,024人
(推計値)

※地域包括ケア「見える化」システムより

15年間で、
約10万人減

(出典) 2000年～2020年まで：総務省「国勢調査」
2025年以降：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」

市町村別の65歳以上の年齢別割合



徳島県統計課「徳島県年齢別推計人口（令和6年10月1日現在）」 ※年齢不詳人口は除く

2 市町支援の流れ、県の役割について

徳島市



上勝町



県の役割について

<支援と支援の間>

- ・各ミーティング後、内容の整理
- ・必要に応じて、方向性等の確認のため、市町訪問
- ・支援当日までの準備、進捗の確認等

<現地支援当日>

- ・全体司会
- ・グループワークの進行や書記等

支援にあたり心がけたこと

1. 経験、役職を問わず全員が主体性を持ち、チームの一員として関わる
2. 経験や技術がない人は、逆にその「強み」を生かす
3. 和やかな雰囲気づくりを意識する
4. 「教える」と気負わず、「状況を知る」という姿勢でのぞむ
5. 気になることがある時はメールや電話で連絡をいれてみる
6. 「わからないこと・知らない事」は率直に尋ねる、確認する
7. チームで支援を行っていくために「情報共有」は特に意識する
8. 市町村が主役であることを押さえる（決定権は市町村にある）
9. 3つの「ない」を常に意識する（押しつけない・追い詰めない・求めすぎない）
10. 「傾聴」と「共感」の姿勢を大切にする

株式会社日本能率協会総合研究所「介護予防・日常生活支援総合事業等の充実のための市町村支援 都道府県マニュアル」R3年度老健事業より抜粋

全体の支援を通しての気づき

- 改めて市町が持っている住民の方の力や資源等の強みに気づくことができた。
- 市町村の「ありたい姿」や「目指すべき姿」を関係者のみならず、住民や組織を超えて共有・議論することにより、より深い議論ができ、新しいアイデアやつながりが生み出されていくことに驚きを感じた。
- 事業の実施を目的化するのではなく、地域づくりの視点を持ちつつ、市町村の思いや考えを尊重する大切さ、そのためには顔の見える関係や対話が重要であることを改めて認識した。
- 支援チームに助けていただいた部分が多く、県単独では、このような支援が出来なかったのではと感ずることがあり、県の役割について改めて考える契機となった。

今後の市町村支援について

- 地域包括ケア「見える化」システムをはじめ、定量的なデータの収集や分析、現場への出向き等を通じて、市町村の課題や現状について把握を行う。
- 事業単位のみならず、地域づくりの視点を持ちながら、必要な支援について市町村の思いや考えを尊重しつつ、共に考えていきたい。
- 支援にあたっては、今回の支援チームのように、集中的に取り組むことができるような体制や意識醸成について検討していきたい。
- 国の研修や事業を通じて、自身の資質向上について取り組みたい。

**地域づくり加速化事業に関わっていただいた皆様
ありがとうございました。**

地域づくり加速化事業をうけて

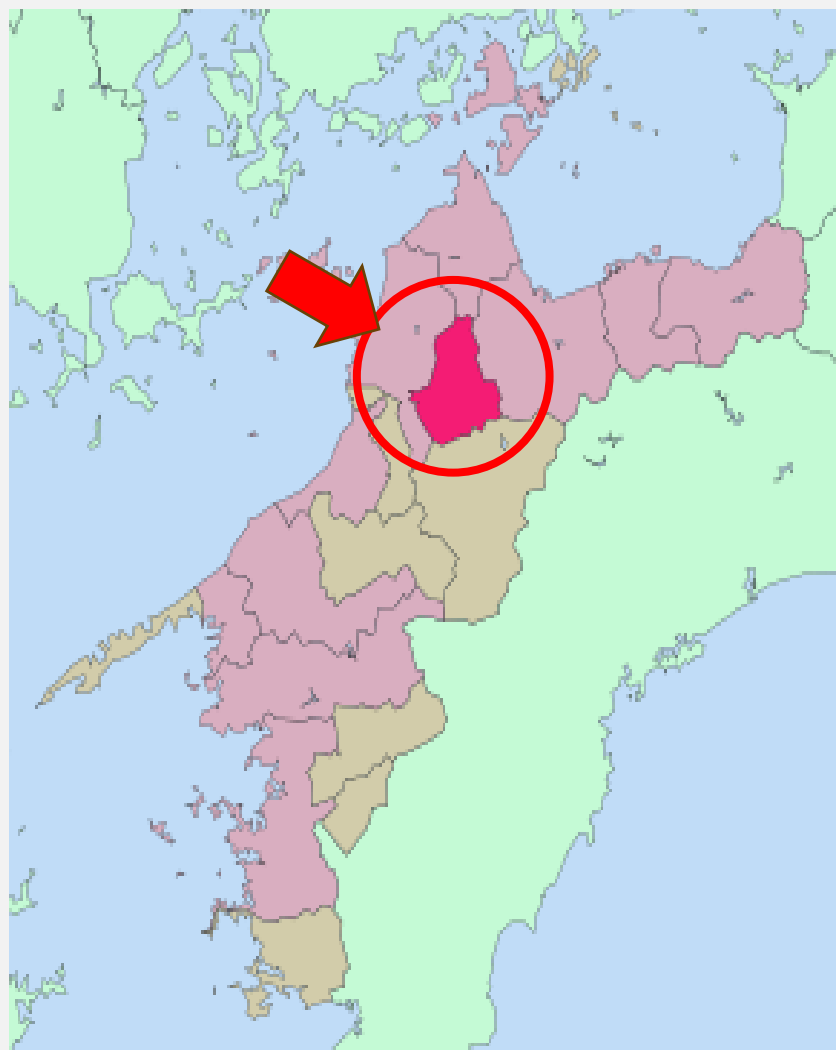
東温市地域包括支援センター

東温市 について

- 人口 32,974人
- 高齢者数 10,602人
- 高齢化率 32.2%
- 地域包括支援センター（委託型）1か所
委託先：東温市社会福祉協議会

（令和6年3月末現在）

東温市の地理



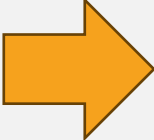
50km



凡 例

- 高速道路
- 国道
- 県道
- 鉄道
- 史跡名勝他
- 山
- 河川
- 市町村界

地域づくり加速化事業へエントリーの経緯

 担当者が感じていた現状や課題について支援を希望

■地域ケア会議について

- ・ 地域課題が抽出されていても、整理の仕方や他の事業とどのように連動していけばいいかわからない。

■生活体制整備事業について（協議体）

- ・ 住民主体性が乏しい。住民がやらされ感なく主体的に進めるにはどうしたらいいのか。

■その他

- ・ 委託先の包括では年度毎に職員の異動もあり、人員も限られている中、事業をこなすことで精いっぱいブラッシュアップまでできていない。

第 1 回目支援（R 6 年 1 0 月 3 日）

【参加者】アドバイザー 2 名、四国厚生支局 3 名、
愛媛県長寿介護課 2 名、東温市長寿介護課 1 名、
地域包括支援センター 2 名、社協地域福祉課 1 名

【内容】

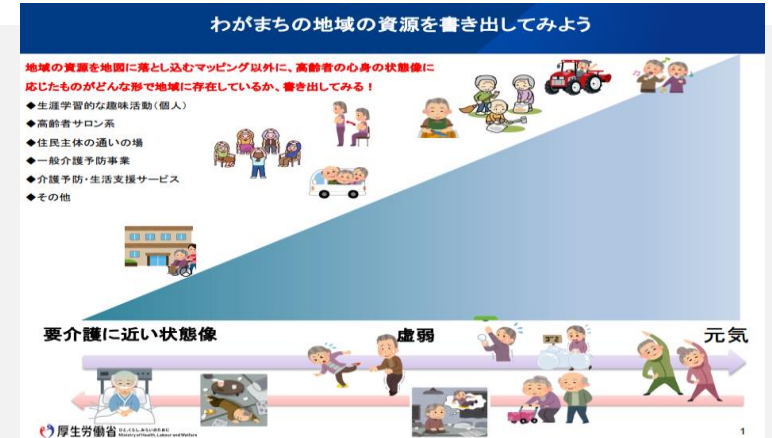
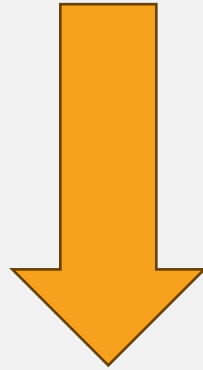
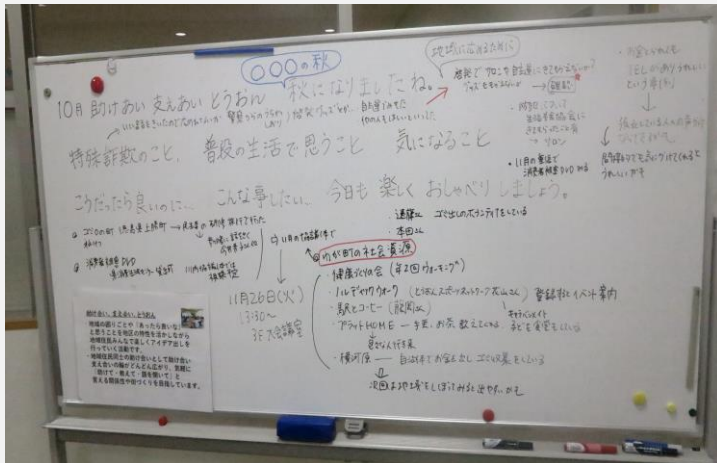
- ①加速化事業の説明（四国厚生支局・篠岡氏）
- ②東温市の現状と課題について意見交換



2回目支援に向けて ①

<アドバイザーの意見から>

- ・地域の「課題」だけでなく、地域の「強み」に着目



10、11月の2層協議体（旧重信町地区、旧川内町地区）で

「地域の強み」「どんな地域になったらいいか」について意見を出し合ってもらった。

→「景色がいい」「人の温かさがある」等抽象的な意見は出たが、それ以上進展しなかった。



2 回目の支援に向けて②（1.5MTG）

<アドバイザーより>10月の第2層協議体での出来事について

- ・地域の強みを出す目的を住民が理解していなかったからでは？
- ・「地域」という範囲が住民と行政とで考えが異なっているのではないか？



関係者・機関が同じ目的で「地域づくり」をしていくには、
思いのずれ、認識のずれ、**目線合わせ**が必要。



「目指す姿」の共有

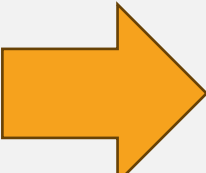
2 回目の支援に向けて③ （1.5MTG）

職員のマンパワー不足という課題に対して・・・

<アドバイザーより>

東温市は、包括が社会福祉協議会に委託されており、社協内で連携し、一体となり、地域づくりができることが強み

→いろいろな立場の方の「**つながり**」を活用できたら仲間を増やすことができるのではないか。



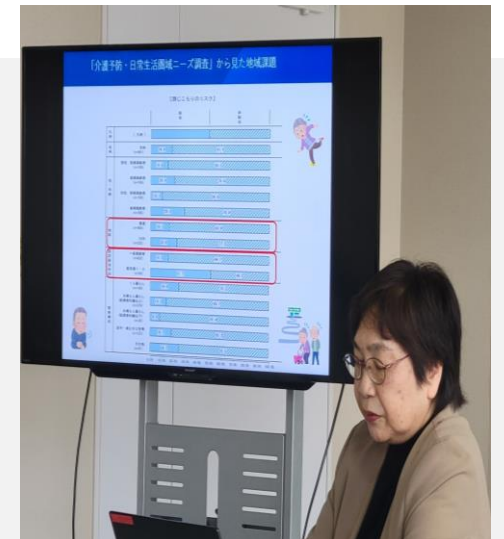
社協内の縦割りの解消、横の連携に向けて
まずは社協内で**目線合わせ**、「**目指す姿**」の共有

第2回目支援（R6年12月26日）午後

【参加者】アドバイザー2名、四国厚生支局3名、
県長寿介護課2名、市市民福祉部長1名、市長寿介護課2名、
市社協・事務局長、総務課1名、地域福祉課2名、包括3名

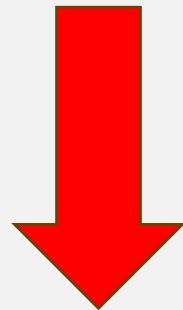
【内容】

- ① 「地域づくりと人、事業のつながり、連動について」四国厚生支局 篠岡 氏
- ② 「社会福祉協議会のあり方、内部連携について」 越智アドバイザー
- ③ 「どんな東温市にしたいか」 意見交換

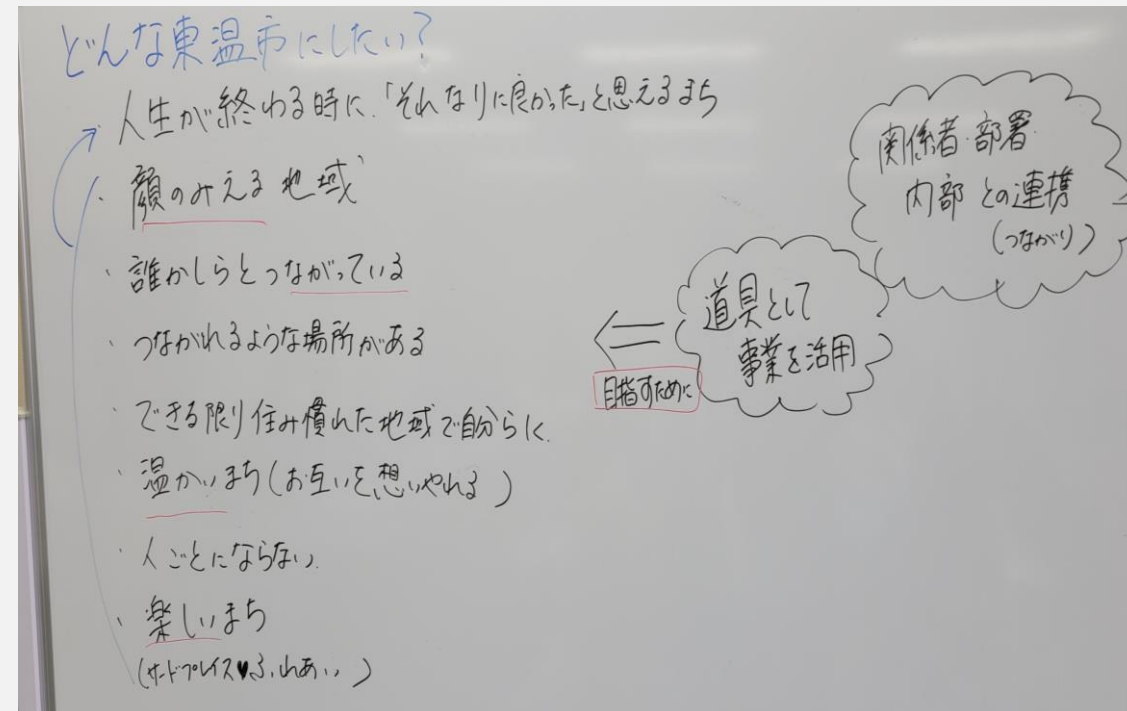


社協職員の感想

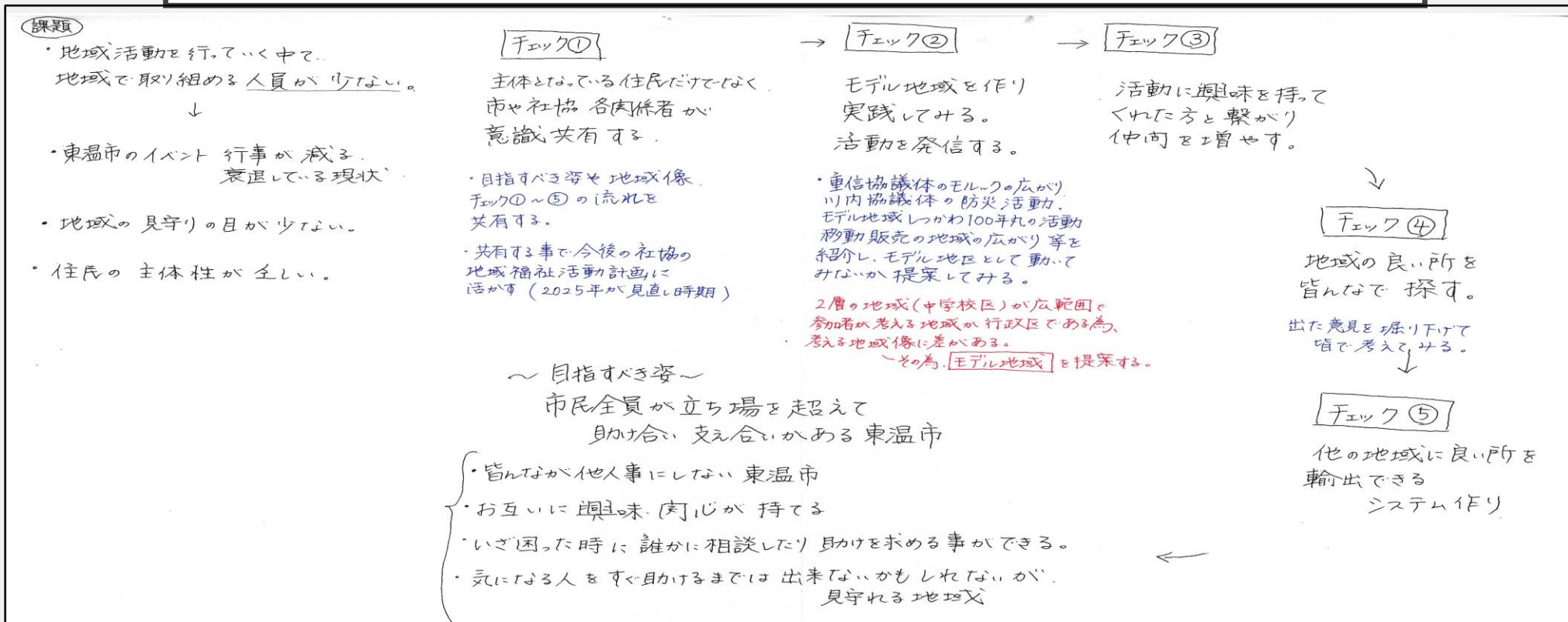
数年前、地域福祉活動計画策定時に課を超えて全職員が一体となり、住民へのヒアリングをした。その時の一体感がよかったが、見つかった課題の対応ができていない。コーディネーターの原点で、フットワーク軽く、住民からの信頼をえたい。



一つの目標に進んでいくためには、日頃の思いを共有し、理解し合うことが大事だと気づいた。



3回目支援に向けて (2.5MTG)



→ 「目指す姿」や方向性についてのロードマップの素案を作成

(主に協議体に焦点)

→ 3回目の支援の時には市が「目指す地域住民、地域福祉課職員含めた、関係者で話し合うことに

3 回目支援（令和7年2月21日午後）

【参加者】アドバイザー2名、四国厚生支局3名、
県長寿介護課2名、市長寿介護課1名、市社協地域福祉課2名
包括3名、地域住民6名（重信地区3名、川内地区3名）

【全体】

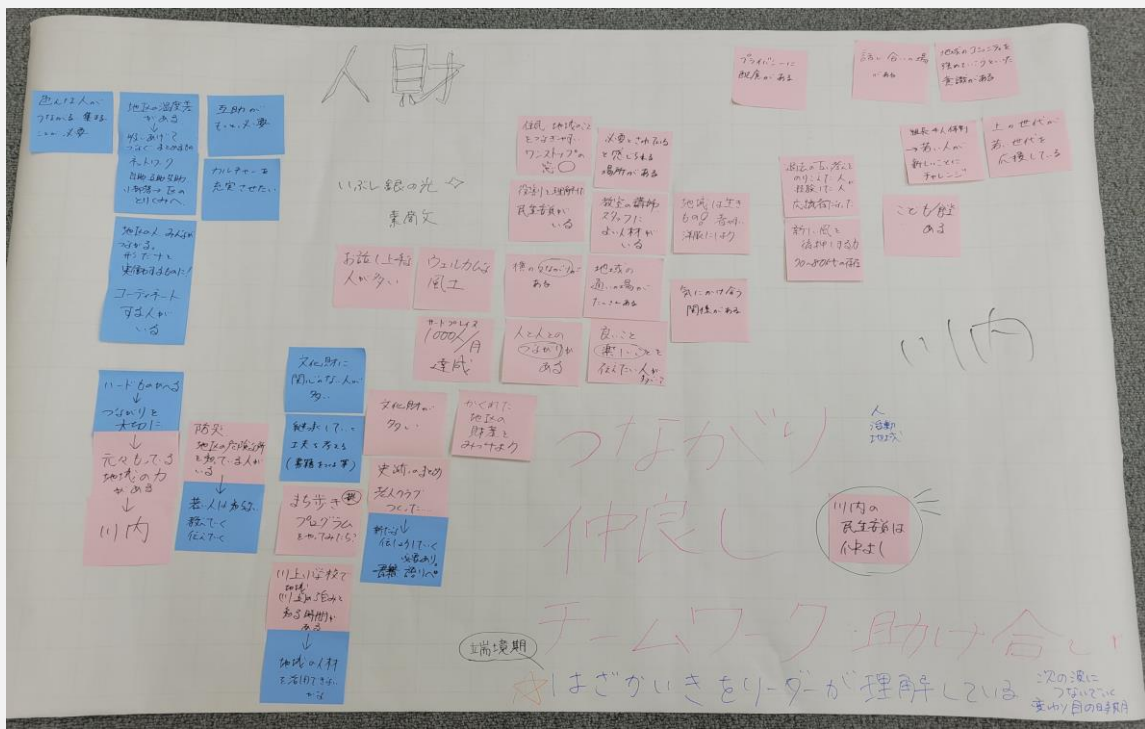
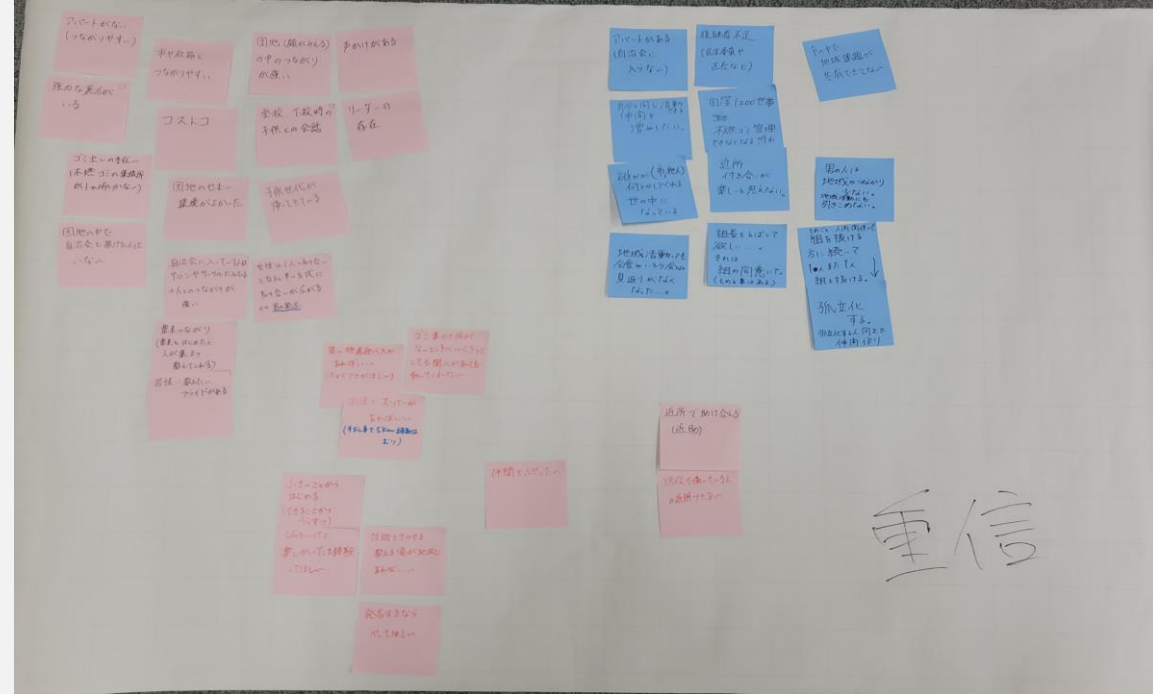
地域づくり加速化事業について（四国厚生支局 篠岡氏）

【グループワーク】

- ①自己紹介、自分たちの活動紹介（住民）
- ②自分たちが住む地域（重信地区・川内地区）の自慢
- ③重信地区・川内地区がこんな地域になったらいいな

【全体】

- ④皆が目指す姿（案）について参加者で検討



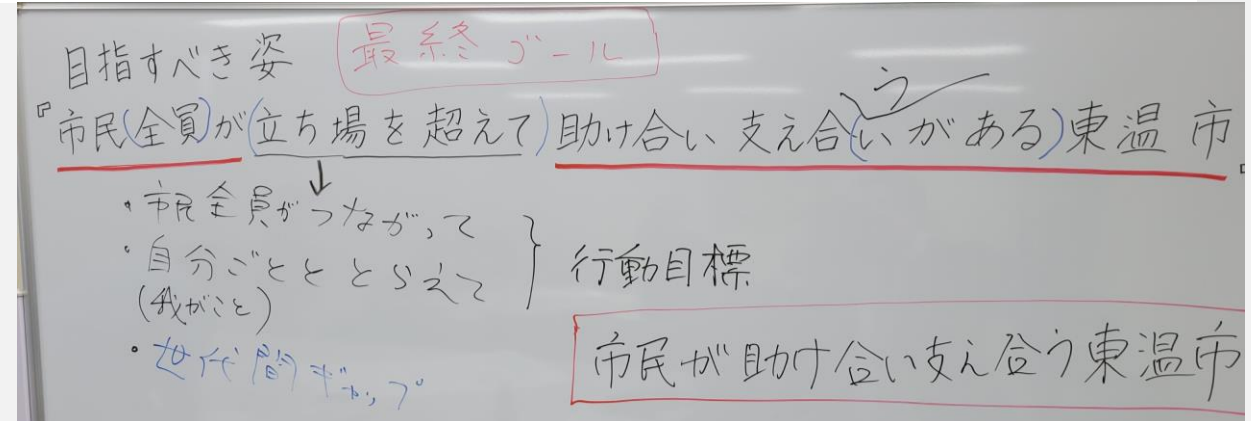
地域住民から出た声

【重信地区】

- 近所で助け合える地域 「近助」という形が東温市にはある。
- 見守りやお世話人など地域活動をして市や社協と顔の見える関係になった。
- 農業をしている人が多く、農業で繋がりがしやすい。

【川内地区】

- 川内地区は人財が豊富
- 地域は生き物！！地域に似合った着やすい洋服を見つけない。
- 端境期をリーダーが理解。次の波（世代）に繋いでいく変わり目の時期。
若者に伝統を継承し、後継者を見つけない。



同じ目指すべき姿(ゴール)に向かって

東温市が目指す姿
「市民が助け合い支え合う東温市」
行動目標
市民全員がつながって、我が事ととらえて

・協議体、地域ケア個別会議等で地域住民、介護支援専門員、専門職、企業関係者で「**目指す姿**」について、考える機会をつくりたい。

→我がごととして地域づくりを考えてもらえる仲間を増やしていきたい。

本事業で得た気づき

自分の担当事業の推進を中心に考えていたが、住民、行政、社会福祉協議会が目線合わせをしながら、皆が同じ

「**目指す姿**」に向かって進めていく必要があるという共通認識が持てた。



ワンチームで
地域づくり！

令和6年度 地域づくり加速化事業における アドバイザー派遣を受けて

 愛媛県保健福祉部生きがい推進局長寿介護課



愛媛県イメージアップキャラクター
みきやん

愛媛県の概況



愛媛県イメージアップキャラクター
みきゃん



区分	年	2015	2020	2030	2040
① 総人口 (千人)		1,362	1,300	1,203	1,074
② 高齢化率 (%)		30.6	33.4	36.3	40.2
③ 介護保険認定率 (%)		20.8	20.9	23.1	25.2
④ 認知症高齢者数 (人)		52,833	54,284	60,882	64,400

①②は2020(令和2)年以前は国勢調査。2022年は総務省統計局調査。2025(令和7)年以降は、国立社会保障・人口問題研究所(2023年12月推計)③は第1号被保険者のみ。介護保険事業報告。2025年以降は各市町が介護保険事業計画で推計した数値の積上げ④は長寿介護課調査。2025年以降は2023年の要介護認定データに基づき要介護認定者数に占める「認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱ以上の割合を算出し市町の要介護認定者数の将来推計に認知症の人が占める割合を乗じて推計

加速化事業への参加が決定

東温市

⇒厚生支局主導型の伴走支援へエントリー

支援テーマ：生活支援体制整備事業、地域ケア会議

支援チーム：越智AD、星田AD、四国厚生支局、加速化事業事務局、県

県としての役割は？



支援方法は
どのように
すすめていくの？

東温市の声を聴き、共に考え、どんなことなら実践できるか…
一緒に模索しよう意識

地域づくり加速化事業における東温市の取組

【東温市の気づき】

- ・地域を統計数値から見る
- ・地域の強みを出し合い、「どんな東温市にしたいのか」という視点で考える

【東温市の気づき】

- ・意見を出し合って、市が目指す姿のイメージが持てた
- ・ロードマップなどを示して、具体的に検討することで連携しやすくなるのでは
- ・行政や包括が考える「地域・市民」と住民が考える「地域・市民」は認識が異なること

【東温市の気づき】

- ・地域住民の声をひろいあげることが大切（再認識）
- ・まちづくり、地域づくりのためには、皆の目線を合わせることを改めて実感

0.5次
MTG

第1回
支援

1.5次
MTG

第2回
支援

2.5次
MTG

第3回
支援

生活支援体制整備事業、地域ケア会議のそれぞれの課題を共有

⇒担当者だけでなく、行政・包括の組織全体で意見交換を行い、現状や地域課題の共有や整理を図る

地域づくりにおける組織内の連携を図る

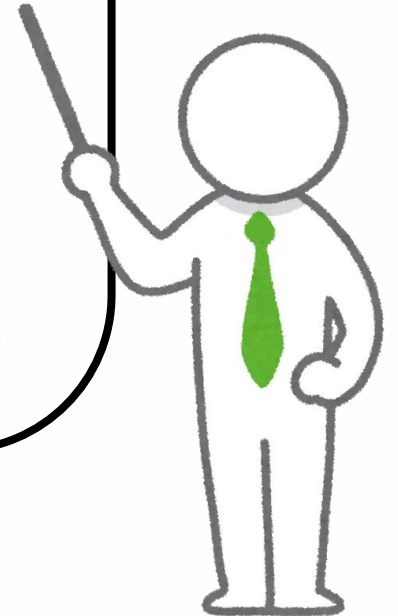
⇒行政・包括・社協の他課に参加してもらい、まずは、組織内で「市として目指す姿」を意見交換し共有を行った

組織内で一緒に考える・連携することを目指す

⇒ロードマップをもとに、組織内で目線合わせを図るため意見交換を実施

伴走支援で心掛けたこと

- 東温市の「やりたい」という想いを前提に
- 取組の過程は大変だったり、思ったとおりにならなかったりしても、最後は支援を受けて良かったと思えるように
- 支援の間に、東温市や支援チームとの調整を図る



支援による気づきや学び



○庁内連携や、関係機関との連携が大切

- ・そのためには、まずは“どのような地域にしていきたいか”を目線合わせをすることが大切
- ・その山(=目指す姿)にどう登る(=事業)のかは様々
- ・住民にとっての「地域」と、行政や支援者の「地域」との違いを認識

今後は…

県として、市町の現状をしっかりと把握し、課題と向き合っていきたい

市町と「ともに考える」という姿勢・顔の見える関係性を作っていくことが第一歩

東温市の皆さま
ご支援いただいた支援チームの皆さま
ありがとうございました。



令和6年度 地域づくり加速化事業 （四国厚生支局） 報告

2025.3.7

四国厚生支局地域包括ケア推進課

四国厚生支局 地域づくり加速化事業支援経過一覧

実施自治体		徳島県勝浦郡上勝町		徳島県徳島市		愛媛県東温市		
テーマ		R5からの継続フォロー		総合事業サービスB		地域ケア会議・生活支援体制整備事業		
アドバイザー名		酒井 やよい		多田 敏子		越智 和子		
				廣末 ゆか		星田 ゆかり		
現 地 支 援 日 及 び 支 援 内 容	第1回		9月9日		9月24日		10月3日	
	内 容	AM	取り組み状況の報告と課題の検討 午後の会議の検討/事前打合せ				自己紹介 地域づくり加速化事業の説明 東温市の現状と課題 意見交換（事業の目的と課題の整理） 今後の取り組み	
		PM	自己紹介 地域づくり加速化事業の説明 上勝町の取り組み報告と今年度の方針 意見交換/ワークショップ（めざす姿の確認/実現のために必要なものは？）					
	第2回		11月28日		11月27日		12月26日	
	内 容	AM	取り組み状況の確認と午後に向けての事前打ち合わせ				午後の会議に向けての打合せ	
		PM	自己紹介 地域づくり加速化事業の説明 上勝町の取り組み報告と今年度の方針 意見交換/ワークショップ（3グループで地域資源の拾いだしと全体共有）				研修（事業の連動について、社会福祉協議会のあり方と内部連携について） 意見交換 振り返り	
	第3回		1月21日		1月20日		2月20日	
	内 容	AM	前回意見交換会からの取り組み状況 なんでも発表会に向けての打合せ				ロードマップの検討経過や内容について 午後の意見交換の打合せ	
		PM	自己紹介 意見交換/ワークショップ（上勝町のこれまでの取り組みと今後の展望） 「いつまでも元気に暮らせる上勝町を目指して」 なんでも発表会に向けて				自己紹介 地域づくり加速化事業の説明 意見交換（地域の強み・弱みを通した課題、市のめざす姿の共有） 振り返りと今後に向けての検討	
今後の方向性		住民主体の活動の推進 継続した啓発活動 関係機関との連携強化		事業間の連動・事業所と住民活動の連携の推進 事業の立ち上げから支え合いの体制づくり 住民、専門職、行政が一体となった協働の仕組みづくり		市のめざす姿を更に共有する仲間を増やしていく 地域ケア会議の場においても課題の共有を図る		

令和6年度 支援の特徴

徳島県上勝町

- ・ 昨年度に引き続いてのフォローとして支援
- ・ それぞれの関係機関での取り組みや様々な住民活動の情報を共有する。
- ・ 今後住民が主体的に活動できるようにする。
- ・ 町の取り組みをできるだけ多くの住民に周知し、ネットワークを構築する。

徳島県徳島市

- ・ “事業をどう進めるか”より、まずは“市のめざす姿”をイメージし共有する。
- ・ 住民の声を聴き、思いを皆で共有する。
- ・ 事業（特にサービスB、サービスC、生活支援体制整備事業）の連動を意識する。
- ・ 関係機関の連携をめざす。

愛媛県東温市

- ・ 庁内や関係者内での思いや課題を共有することが重要
- ・ まずは市としてのめざす姿を描くこと。
- ・ 住民の声を聴き、めざす姿や地域の課題を共有する。
- ・ 更にめざす姿を共有していく仲間づくりをめざす。

【地域づくりを進めるために】 課題のまとめと取り組みの方向性

課題



- 市町の中でもそれぞれ小地域の特性があり、地域課題も違ってくる。
- 住民の声、思いがしっかり聴けていない。
- 地域の資源が十分生かせていない。
- 事業所間等の連携が十分ではない。
- それぞれの機関がもつ役割が明確ではない。また、共有できていない等の可能性がある。
- 事業と事業がうまく繋がっていない。
- 自治体としてのビジョン（めざす姿）が描けていない。
- 保険者（行政）包括、社協など牽引役の中での調整に課題
- 事業をうまく進めることが目標になっており、めざす姿に向かう手段として捉えられていない



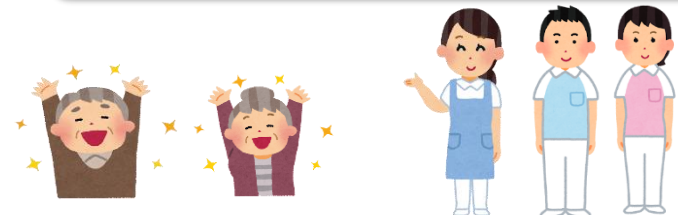
**目線合わせ
（規範的統合）**

**ビジョン（めざす姿）の
共有**

顔の見える関係性の構築

地域マネジメント

仲間を増やす

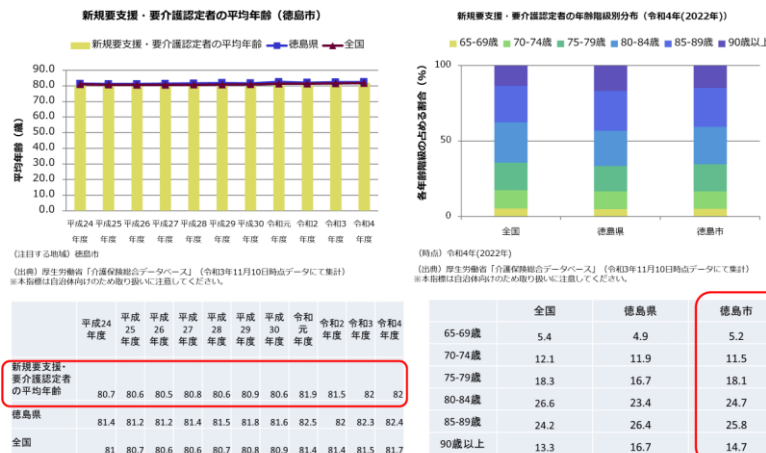


課題解決に向けて(データから地域の現状を共有)

①「見える化システム」から見える地域課題『要介護（要支援）認定者数、認定率の推移、新規認定者の年齢分布等』

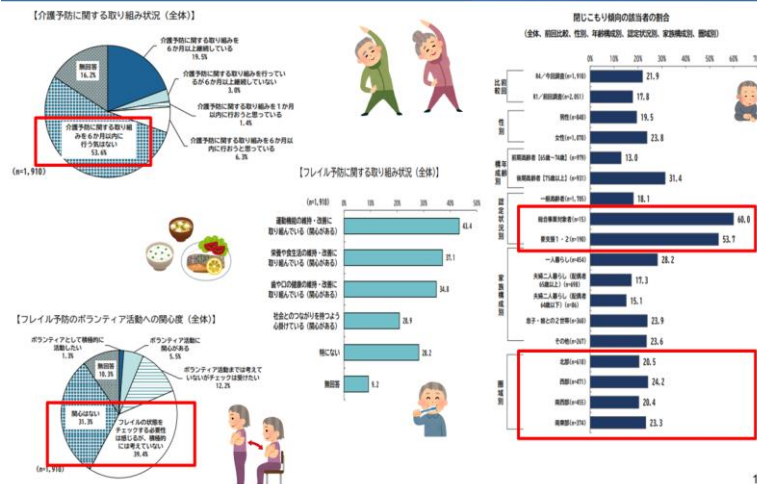
例)

徳島市の現状(見える化システムより)



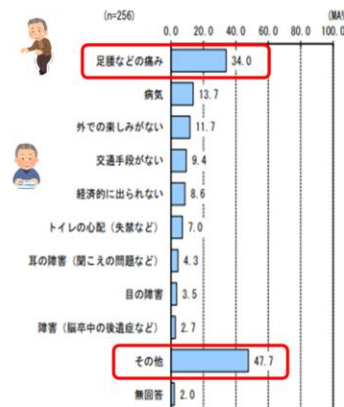
②介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果の活用(抜粋)

介護予防や社会参加の現状(徳島市日常生活圏域ニーズ調査より)

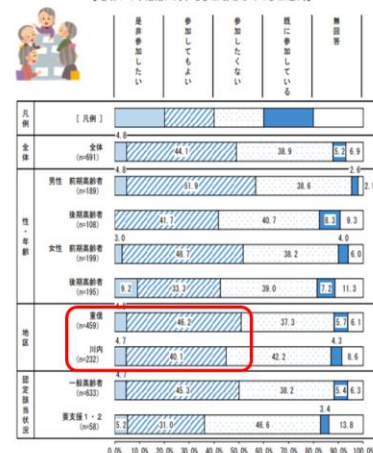


「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」から見た地域課題

【外出を抑えている理由(MA)】



【地域づくり活動に対する参加者としての参加意向】



取り組みを進めるための工夫

- ・目線合わせの重要性への理解
- ・資料(図)を活用して関係者間での作業(ワークショップ)を実施

図1

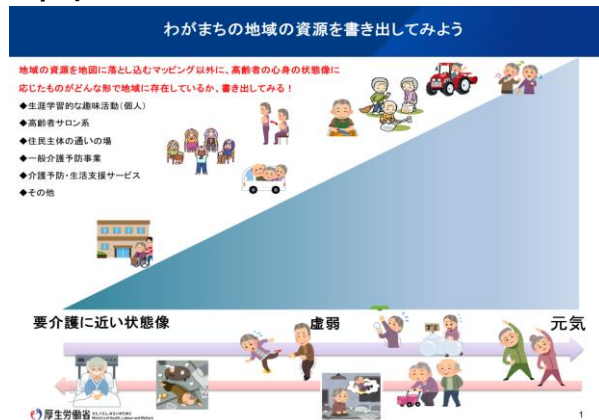
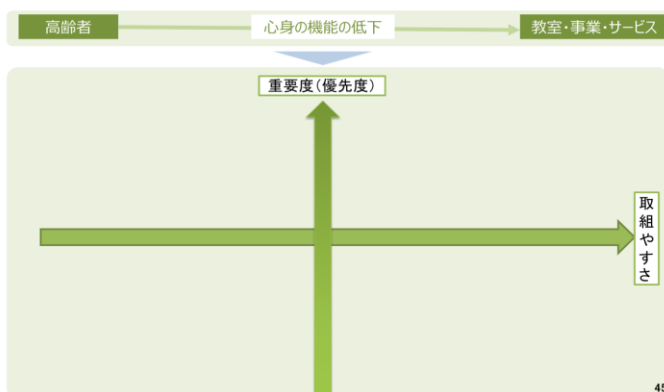


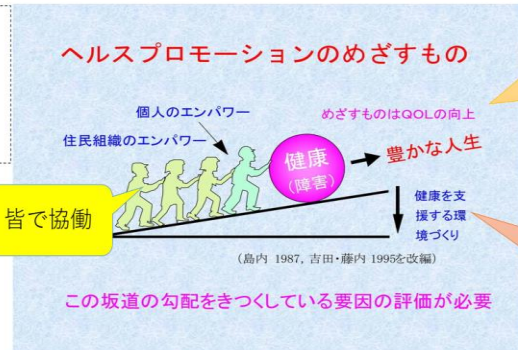
図2

高齢者が「みんなできり育てる健康・いきいき・安心のまち」をめざして
重要度(優先度)・取組やすさから考え直してみる



“規範的統合でめざす”ことのイメージ

【ヘルスプロモーションの考え方から】
(1986年オタワ憲章)〔島内1987〕
*ヘルスプロモーションとは、人々が自らの人々が自らの健康をコントロールし、改善することができるようにするプロセス
*身体的、精神的、社会的に完全に良好な状態に到達するためには、個人や集団が望み確認・実現し、ニーズを満たし、環境を改善し、環境に対処すること。



めざす暮らし
〔地域〕
の共有

*健康は生きる目的ではなく毎日の生活資源

坂道を緩やかにするための手段
各種事業

登山に例えると・・・

どんな山を登る？
どうやって登るか
ルートもいろいろ
ゆっくりと着実に
時には振り返ることも



《ビジョンの共有》

事業をする(作る)ことが目標ではなく
なぜ、それを行うのか
何をめざすのかを大切に

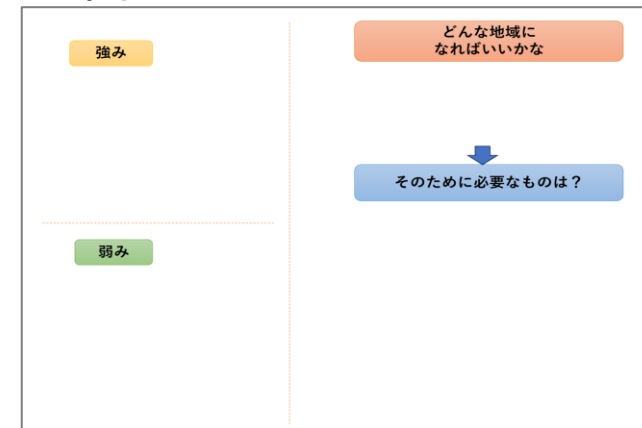
9

図3

めざす
こと

地域の人みんなで 取り組むこと	関係機関で 取り組むこと	行政(役場)で 取り組むこと

図4



これからもみんなで地域づくりをすすめていくために

- ★みんなそれぞれ頑張っている。バラバラになっている力を合わせよう。
- ★まずは「めざす姿（ビジョン）」を共有。
- ★顔を合わせ、語る「場」を持っていこう。
- ★住民の声を大切に生かそう。思いを語り合うことの楽しさを知ろう。
- ★いろいろな「場」に出向き、声を聴き、ネットワークを築いていこう。
- ★様々なデータや声を「見える化」し、目線合わせに活かそう。
- ★制度や事業は、めざす姿を達成するための手段・道具として捉え、事業間の繋がり（連動性）をもって展開していこう。
- ★焦らず、一歩ずつステップアップを。
- ★行き詰まった時は「これは何の為にやっているのか」を再確認してみよう。

四国厚生支局は
自治体の皆様の
地域づくりの推進を
サポートします。

「地域づくり加速化事業」を
是非ご活用ください。

